

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分	総合科目	
科目名	憲法			担当講師	中嶋 直木	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「憲法」(豊岡短期大学通信教育部配本テキスト)					
学習目標	<p>憲法は「統治機構」「人権」の2つの部分からなる。これらは相互に密接に結びついている。憲法は国民の人権を保障することに主眼があり、権力分立を基本とする統治機構が作られており人権保障に奉仕する。国家権力の濫用防止・国民の権利・自由の保障により「人間の尊厳」が保障される。憲法は国家という基礎の上に成立し平和が確保された状況で初めて機能する。憲法が我々の生活にどうかかわっているかを理解することがテーマである。</p> <p>レポート: 日本国憲法にはどのような人権規定があるのか、統治機構が採用されているのか理解することができる。</p> <p>科目試験: 国家の統治機構・三大基本原理(「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」)の構成が学習でき、日本国憲法が我々の生活にどうかかわっているかを理解することができる。</p>					
成績評価の方法と基準	<p>学習状況の確認: レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。</p> <p>科目の成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する。(評価は、ルーブリック評価を用いSABCDの5段階評価を行う)</p>					
講義回数	学習内容					
第1回	憲法と立憲主義・日本憲法史について理解する。					
第2回	日本国憲法の構成と基本原理について理解する。					
第3回	基本的人権の保障・包括的基本権と法の下の平等について理解する。					
第4回	精神的自由権について理解する。					
第5回	身体的自由権について理解する。					
第6回	経済的自由権について理解する。					
第7回	社会権について理解する。					
第8回	参政権と国務請求権について理解する。					
第9回	統治機構の基本原理について理解する。					
第10回	国会と立法権について理解する。					
第11回	内閣と行政権について理解する。					
第12回	裁判所と司法権について理解する。					
第13回	財政について理解する。					
第14回	地方自治について理解する。					
第15回	憲法改正について理解する。					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	総合科目	
科目名	健康科学		担当講師	山部 優香里	
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位
講義方法	講義				
使用教科書・使用教材	・健康科学(配本テキスト)				
学習目標	客観的に状況を分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の健康・体力づくりができるようになる。				
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・学習状況の確認:レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。				
講義回数	学習内容				
第1回	健康な生活設計 自己の健康管理について、喫煙・飲酒が及ぼす身体影響を考える。				
第2回	運動の基礎理論 利便化された現代人の運動不足と健康管理について学ぶ。				
第3回	運動生理学 運動が身体に及ぼす影響、運動と呼吸、運動と筋肉、運動と神経についての知識を高める。				
第4回	救急救命 救急処置についての知識と対処法、AEDの取り扱いを学ぶ。				
第5回	運動処方① 運動処方の内容について学ぶとともに、運動場面で多発している熱中症の対処法を学ぶ。				
第6回	運動処方② ウォーミングアップとクーリングダウンについて学ぶ。				
第7回	健康日本21 「健康日本21」から自己の健康への課題を探る。				
第8回	生活と運動 自己のライフスタイルでの健康・体力づくりを学ぶ。				

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教職専門科目		
科目名	スポーツ(実技)		担当講師	山部 優香里		
対象学年	1~2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	実習					
使用教科書・使用教材	・「健康科学」(配本テキスト) ※施設・用具の都合で実施できない場合は、他の種目に替える場合もある。その際、個人的・集団的スポーツをバランスよく取り扱う。					
学習目標	生涯にわたってスポーツを自ら実践することができる能力を身につける。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。 ・スクーリングにおける受講態度(20%)や単位認定試験結果(80%)で評価は5段階で行う。					
講義回数	学習内容					
第1回	ガイダンス					
第2回	バレーボール①基礎練習					
第3回	バレーボール②応用練習					
第4回	バレーボール③ゲーム・審判					
第5回	体づくり運動、エアロビクス運動、ダンス					
第6回	バドミントン①基本練習					
第7回	バドミントン②シングルの練習					
第8回	バドミントン③ダブルスの練習					
第9回	バスケットボール①基本練習・応用練習					
第10回	バスケットボール②ゲーム・審判					
第11回	卓球①基本練習					
第12回	卓球②シングルのゲーム					
第13回	卓球③ダブルスのゲーム					
第14回	ニュースポーツを学ぶ(ティーボールなど)					
第15回	ウォーキングとその効果について					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分	総合科目	
科目名	情報リテラシーと処理技術			担当講師	木下幹朗	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	『情報リテラシーと処理技術』三木紘武 著					
学習目標	情報技術、通信ネットワーク技術の基礎知識がわかる コンピュータのしくみと脆弱性から生じる情報化社会の問題点を理解する リテラシーを理解し、正しい情報の扱い方を学ぶことができる					
成績評価の方法と基準	期末試験による評価					
講義回数	学習内容					
第1回	情報化社会					
第2回	コンピュータの発展					
第3回	コンピュータのしくみとハードウェア					
第4回	ソフトウェア					
第5回	情報ネットワーク					
第6回	インターネットのしくみ					
第7回	情報システムの課題と情報を変えていく社会					
第8回	コンピュータに忍び寄る脅威と対策について、正しい情報の扱い方、著作権など					
第9回	パソコンの環境設定、Windowsの基本操作、フォルダーの作成					
第10回	Wordの基本操作と保存操作、ビジネス文書作成					
第11回	ビジネス文書作成(文字書式、段落書式)					
第12回	Excelの基本操作、表作成					
第13回	基本関数とグラフ作成					
第14回	PowerPointの基本操作、モバイル端末からのデータ移送					
第15回	プレゼンテーションの資料作成					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分	総合科目	
科目名	英語コミュニケーション			担当講師	三浦 弘文	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	英語コミュニケーション（豊岡短期大学通信教育部テキスト）					
学習目標	<p>○英語表現の基礎となる文法・構文の復習を行うとともに、保育の現場に必要な英語表現を運用できる力を身に付ける。</p> <p>・レポート: 平易な英語で書かれた物語・子どもの発達に関する英文の内容を理解することが出来る。</p> <p>・試験: 英語表現の基礎となる文法・構文を用いて英文を作ることが出来るとともに子どもの発達に関する内容を理解することが出来る。</p>					
成績評価の方法と基準	<p>【学習状況の確認】レポート課題における専門知識の理解、獲得・思考表現により判定し評価する。 ルーブリック評価(5段階評価:S・A・B・C・D)</p> <p>【科目の成績評価】科目試験の結果により判定し評価する。 ルーブリック評価(5段階評価:S・A・B・C・D)</p>					
講義回数	学習内容					
第1回	Chapter 1. 英語の文法(動詞、形容詞、副詞)について理解を図り、活用する。					
第2回	Chapter 1. 英語の文法(比較、代名詞、疑問詞)について理解を図り、活用する。					
第3回	Chapter 1. 英語の文法(進行形、完了形、受動態)について理解を図り、活用する。					
第4回	Chapter 2. 英語の基礎構文(5文型)について理解を図り、活用する。					
第5回	Chapter 2. 英語の基礎構文(修飾語句)について理解を図り、活用する。					
第6回	Chapter 2. 英語の基礎構文(接続詞、仮定法)について理解を図り、活用する。					
第7回	Chapter 3. 入園準備の場面でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					
第8回	Chapter 3. 登園・降園の場面でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					
第9回	Chapter 3. 室内遊びの場面でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					
第10回	Chapter 3. 外遊びの場面でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					
第11回	Chapter 3. 健康・病気・けがに関する英語の単語・基礎構文について理解する。					
第12回	Chapter 3. 運動・お散歩の場面でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					
第13回	Chapter 3. 食事の場面でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					
第14回	Chapter 3. 工作・お絵かきの場面でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					
第15回	Chapter 3. おたより・行事でよく使われる英語の単語・基礎構文について理解する。					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教科専門科目		
科目名	こども家庭福祉		担当講師	石川弓子		
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・「こども家庭福祉」(配本テキスト) ・「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 					
学習目標	<p>①望ましい保育者となるために、現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解するとともに、制度や関係機関の実施体制について学ぶを深める。</p> <p>②こどもの人権に目を向けながら子ども家庭福祉の現状と課題について考察を深め、今後の展望を見極める。</p>					
成績評価の方法と基準	<p>①ルーブリック評価を用いて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況の確認:レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 <p>②評価は5段階で行う。</p>					
講義回数	学習内容					
第1回	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷					
第2回	現代社会と子ども家庭福祉:少子高齢化、家族形態の変化、相対的貧困、食文化					
第3回	子どもの権利—こども観、人権擁護の歴史的変遷、児童の権利に関する条約					
第4回	子どもの人権擁護と現代社会における課題					
第5回	子どもの家庭福祉の制度と法体系及び実施体系					
第6回	児童福祉施設と子ども家庭福祉お専門職・実務者					
第7回	少子化と地域子育て支援					
第8回	母子保健と子どもの健全育成					
第9回	多様なニーズへの対応					
第10回	こども虐待・DV(ドメスティックバイオレンス)とその防止					
第11回	社会的養護					
第12回	障害のある子どもへの対応					
第13回	少年非行等への対応					
第14回	貧困家庭、ひとり親家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応					
第15回	子ども家庭福祉の動向と展望					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教科専門科目		
科目名	社会的養護 I		担当講師	宮崎哲博		
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	社会的養護 I 石田易司 編					
学習目標	望ましい保育者になるため必要な社会的養護の基本的な知識、専門性、価値観を身に付ける					
成績評価の方法と基準	レポート課題提出と科目試験によるSABCDによる5段階評価					
講義回数	学習内容					
第1回	社会的養護の理念と概念					
第2回	社会的養護の歴史的変遷					
第3回	子どもの人権擁護と社会的養護					
第4回	社会的養護の基本原則					
第5回	社会的養護における保育士等の倫理と責任					
第6回	社会的養護の制度と法体系					
第7回	社会的養護の仕組みと実施体系					
第8回	社会的養護の対象					
第9回	家庭養護と施設養護					
第10回	社会的養護に関わる専門職					
第11回	社会的養護に関する社会的状況					
第12回	施設等の運営管理					
第13回	被措置児童等の虐待防止					
第14回	社会的養護と地域福祉					
第15回	保育現場における社会的養護の現状と課題					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教科専門科目	
科目名	保育原理		担当講師	濱田由美子	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位
講義方法	講義				
使用教科書・使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・「保育原理」(配本テキスト) ・「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 				
学習目標	本講座では、保育・教育に携わる者に求められる保育に関する基本的な知識を学び、保育者としての視点を養い、保育・教育の根幹をなす原理を追求する。				
成績評価の方法と基準	<p>①ルーブリック評価を用いて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況の確認: レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思想表現により評価する。 ・科目の成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する。 <p>②評価は5段階で行う。</p>				
講義回数	学習内容				
第1回	保育とは何か(1) ・保育の意義と目的				
第2回	保育とは何か(2) ①こどもの最善の利益を考慮した保育 ②保護者との協働				
第3回	保育とは何か(3) ①保育の社会的意義 ②保育所保育と家庭保育				
第4回	保育所保育指針における保育の基本(1) ①保育の目標と方法 ②養護と教育の一体性				
第5回	保育所保育指針における保育の基本(2) ①環境による保育 ②発達過程に応じた保育				
第6回	保育所保育指針における保育の基本(3) ①こどもの健康と安全と保育計画 ②保護者に対する支援 ③倫理観に裏付けられた保育士の専門性				
第7回	保育の質を高めるための方法(1) ・望ましい未来を作りだす力の基礎を培う				
第8回	保育の質を高めるための方法(2) ・生活と遊びを通して総合的に行う教育				
第9回	保育の質を高めるための方法(3) ・保育における個と集団の配慮				
第10回	保育の思想と歴史的変遷(1) ・欧米の保育思想の展開と保育施設の発展				
第11回	保育の思想と歴史的変遷(2) ・わが国における保育の歴史的変遷				
第12回	保育の制度(1) ①保育所について ②幼稚園について				
第13回	保育の制度(2) ①認定こども園について ②家庭保育事業について				
第14回	保育の現状と課題(1) ・日本の保育の現状と課題				
第15回	保育の現状と課題(2) ・外国の保育の現状と課題				

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教科専門科目		
科目名	こどもの発達と家庭支援論		担当講師	濱田由美子		
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	『こどもの発達と家庭支援論』室谷雅美					
学習目標	生涯発達の観点から発達のプロセスや初期発達の重要性について理解し、保育との関係性について考え、子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題について理解する。子育て家庭に関する現状と課題を把握し子育てを取り巻く社会的状況と課題について理解する。					
成績評価の方法と基準	レポート課題提出と科目試験によるSABCDによる5段階評価					
講義回数	学習内容					
第1回	乳幼児期の発達					
第2回	幼児期の発達					
第3回	学童期の発達					
第4回	青年期の発達					
第5回	成人期・中年期の発達					
第6回	老年期の発達					
第7回	家族・家庭の意義と発達					
第8回	親子関係・家族関係の理解					
第9回	子育て経験と親としての育ち					
第10回	子育てを取り巻く社会的状況					
第11回	ライフコースと仕事・子育て					
第12回	多様な家庭とその理解					
第13回	特別な配慮を要する家庭					
第14回	子どもの生活・成育環境とその影響					
第15回	子どもの心の健康に関わる問題					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教科専門科目		
科目名	こどもと造形		担当講師	藪田秀子		
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	「造形表現論」(豊岡短期大学通信教育部配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説: 文部科学省」(最新版)(フレーベル社) 「保育所保育指針解説: 厚生労働省」(最新版)(フレーベル社) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説: 内閣府・文部科学省・厚生労働省」(最新版)(フレーベル社)					
学習目標	保育内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して造形感覚の基礎的陶冶を図る。また、乳幼児を含めたこどもの造形の指導・援助者として造形教育の中で取り扱う教材に必要な知識や技能の習得を狙う。 1. 乳幼児造形教育の指導・援助者として必要となる形や色や質感等の基礎的な知識及び技能について理解ができる。 2. えがく領域、つくる領域、造形あそびの領域の製作を通して、基礎的な知識及び技能について習得できる。 3. 教勢研究及び発表を行うことで思考力や表現力を高めることができる。					
成績評価の方法と基準	科目の成績評価: スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する。 (評価はルーブリック評価: SABCDの5段階を用い行う)					
講義回数	学習内容					
第1回	1. 幼児造形教育の重要性と研究の視点について学ぶ。					
第2回	2. 幼児造形(表現)の特徴・領域・道筋について学ぶ。					
第3回	3. えがく領域に伴う製作Ⅰ(えがく活動における指導・援助と実際)を行う。					
第4回	4. つくる領域に伴う製作Ⅱ(つくる活動における指導・援助と実際)を行う。					
第5回	5. 造形あそびの領域に伴う製作Ⅲ(造形遊びにおける指導・援助・実際)を行う。					
第6回	6. 作品の研究及び発表し合う。					
第7回	7. 幼児造形教育の課題について学ぶ。					
第8回	8. まとめをする。					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	子ども未来学科		科目区分	教科専門科目		
科目名	造形表現論		担当講師	藪田 秀子		
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	テキスト「造形表現論」「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」					
学習目標	<p>1 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について解説できる。</p> <p>2 乳幼児の表現方法の大切さと表現にともなう形、色、材質、手法、材料等について理解できる。</p> <p>3 乳幼児のえがく、つくる造形活動について、発達段階を踏まえた材料や手法の取り扱いと指導援助について理解できる。</p>					
成績評価の方法と基準	学習状況の確認;レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判断し評価する。科目の成績評価;科目試験の結果により判定し評価する。					
講義回数	学習内容					
第1回	幼稚園教育要領・保育保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」領域を踏まえた幼児造形表現の学習について学ぶ。					
第2回	こどもの発達段階における表現の特徴と指導・援助についての発達段階とえがく、つくる、造形あそびの造形活動の意義について学ぶ。					
第3回	こどもの発達段階、えがく、つくる、造形あそびの特徴と指導、援助、評価について学ぶ。					
第4回	えがく活動における形態。色彩に理論 絵画技法、政策内容と材料・用具について学ぶ。					
第5回	つくる活動における技法と活用、つくる活動の素材(廃材)、製作内容と材料・用具について学ぶ。					
第6回	造形あそびにおける各種表現技法、製作内容と材料・用具について学ぶ。					
第7回	実践的な指導法の学習と情報機器及び教材の活用について学ぶ。					
第8回	美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題とまとめをする。					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教科専門科目		
科目名	音楽表現論		担当講師	水黒博子		
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「音楽表現論」(豊岡短期大学配本テキスト) 「保育所保育指針解説書」(フレーベル館)					
学習目標	感性と表現に関する領域「表現」を理解し、子どもの音楽表現の姿やその発達を促す要因、子どもの音楽的感性や創造性を豊かにする様々な音楽的表現、遊びや環境構成等音楽的表現指導に関する専門的知識・表現力を身に付ける。					
成績評価の方法と基準	レポート:ルーブリック評価(50%)、試験(S・A・B・C・D:5段階)(50%) 学習状況の確認:レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 科目の成績評価:科目試験の結果により判定し、評価する。					
講義回数	学習内容					
第1回	感性と表現に関する領域「表現」とは何なのか。 「表現」の目標と内容及び内容の取扱い理解					
第2回	「豊かな感性を育む」意欲や表現をどのように引き出していくのかについて 音楽表現とその内容について、特に(1)・(4)・(6)についての理解					
第3回	第4回の復讐及び音や音楽との関係性の理解 子どもたちを取り巻く社会の変化や様々な音環境の変化についての理解					
第4回	音楽表現指導に関する専門知識と「表現」の「内容」 ソルフェージュ楽譜と音楽記号(譜表と記号)、(楽譜の読み方)					
第5回	リズムと拍子(音符と休符)、拍子・音階・調性 基礎理論の復讐、特に調性に関する理解、コードネーム。					
第6回	日本のこどもの歌と歴史的背景の理解 童謡などについて、調性感やリズムの理解と実践					
第7回	保育実践における豊かな表現を引き出す援助のあり方 幼児用楽器の取扱い。正しい演奏法。					
第8回	家庭と園生活に於ける乳幼児の音楽表現活動の繋がり、小学校～学びの理解					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分	教科専門科目	
科目名	社会福祉論			担当講師	石川弓子	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	社会福祉論（豊岡短期大学通信教育部テキスト）、プリント教材（高齢者施設等について） 幼稚園教育要領解説書・保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書					
学習目標	子ども家庭福祉との関連の中で、望ましい保育者となるために、社会福祉の意義や歴史的変遷、その運営の制度や技術について理解を深める。					
成績評価の方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート:ルーブリック評価(50%) ・試験(S・A・B・C・D:5段階評価)(50%) ・当事者主体を理解しているか。・高齢者の多様な施設形態とそれぞれの特徴を理解しているか。個人の尊厳を守るために ・自分の考えを持つ。・生活保護制度や子どもの貧困の現状と発達について理解ができているか。・保育士として何が出来るか。 					
講義回数	学習内容					
第1回	社会福祉の理念・・・共生社会を目指して					
第2回	社会福祉の歴史的変遷・・・基礎構造改革への流れ					
第3回	子ども家庭支援と社会福祉・・・日本で里親が根付かないのは					
第4回	社会福祉の制度と法体系・・・社会福祉事業法から社会福祉法へ					
第5回	社会福祉施設					
第6回	社会福祉の専門職					
第7回	社会保障と関連制度・・・子どもの貧困をどう守る					
第8回	相談援助の理念・・・当事者主体の推進					
第9回	相談援助の対象者・・・虐待をする大人、された子ども					
第10回	相談援助の方法・・・コーチング理論はどうして生まれたか					
第11回	相談援助の過程・・・評価への道のり					
第12回	情報提供・個人情報保護・第三者評価・苦情解決					
第13回	諸外国の動向・・・施設ゼロ宣言をした国					
第14回	在宅福祉、地域福祉の推進・・・ボランティア社会					
第15回	今後の福祉の在り方・・・福祉コミュニティづくり					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分	教科専門科目	
科目名	人間関係論			担当講師	石川弓子	
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	人間関係論(豊岡短期大学通信教育部テキスト) 幼稚園教育要領解説書 保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書					
学習目標	こどもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。こどもを取り巻く他者との関係、集団との関係から、こどもの人間関係を考察し、乳幼児が人との関わりを通じて育つことを理解する。					
成績評価の方法と基準	・レポート:ルーブリック評価(50%) ・試験(S・A・B・C・D:5段階)(50%) 領域「人間関係」について理解を深め、人間関係の成立と展開に関する発達心理学的基盤について理解する。保育実践において人間関係を育む際の保育者の役割について理解し発達に応じた保育の在り方を考える。					
講義回数	学習内容					
第1回	領域「人間関係」 ・ねらいと内容 ・領域の相補性(保育活動の総合性とは)					
第2回	人間関係と取り巻く社会環境① ・少子高齢化 ・家族の変化					
第3回	人間関係と取り巻く社会環境② ・身近な環境の変容 ・メディアの変化					
第4回	人間関係をつむぐこどもの発達 ・規範意識と道徳性の芽生え(育ち) ・ルール、決まり事の意味と意義					
第5回	人間関係をつむぐこどもの発達 ・自立心、協同性の芽生え(育ち) ・自己発揮と自己抑制の芽生え(育ち)					
第6回	人間関係とこどもの遊び ・遊びの中で育つ乳児の人間関係 ・遊びの中で育つ幼児の人間関係					
第7回	人間関係とこどもの遊び ・家庭との関わりと子どもの発達 ・地域との関わりとこどもの発達					
第8回	今日的な人間関係の課題 (多様な文化のこどもと気に留めたいこども)					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分	教科専門科目	
科目名	言葉とこどもの文化			担当講師	藪田 秀子	
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	テキスト「言葉とこどもの文化」「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育解説」 参考書・参考資料等「絵本の事典」中川素子 他編集 朝倉書店					
学習目標	1 領域「言葉」を踏まえ、児童文化財とことばの習得について述べるができる。 2 具体的な児童文化財の分析と考察を多角的にすることができる。 3 幼児期のことばの特徴について理解し、できる。言語教材としての児童文化財の具体的な利用方法を述べるができる。					
成績評価の方法と基準	学習状況の確認; レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判断し評価する。(評価はルーブリック評価を用いて行う。) 科目の成績評価; 科目試験の結果により判定し評価する。(評価はルーブリック評価を用いて行う。)					
講義回数	学習内容					
第1回	ことばの機能と言葉の発達 ・人間とことば、幼児とことば ・乳幼児期のことばの発達と保育者の役割					
第2回	領域〈言葉〉のねらい及び内容 ・保育所保育指針 ・幼稚園教育要領					
第3回	ことばを育てる児童文化財① ・児童文化財とは ・絵本					
第4回	ことばを育てる児童文化財② ・紙芝居 ・おはなし					
第5回	ことばを育てる児童文化財③ ・ペープサート ・シアター(パネルシアター・エプロンシアターなど)					
第6回	ことばを育てる児童文化財④ ・ことばに対する感覚を養う児童文化財 ・わらべうたあそび、ことばあそび					
第7回	ことばを育む教材 ・ことばを育む教材の範囲 ・ことばを育む教材研究					
第8回	保幼小連携について					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分	教科専門科目	
科目名	こどもの食と栄養(スクーリング)			担当講師	成瀬 暁子	
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	こどもの食と栄養(豊岡短期大学通信教育部テキスト)・幼稚園教育要領解説書 保育所保育指針解説書、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書					
学習目標	こどもの栄養や食生活についての理解を深め、離乳食や食育、特別な配慮を要するこどもへの対応等実践力をつける。					
成績評価の方法と基準	・レポート(試験)(50%) ・授業態度(50%) (S・A・B・C・D:5段階評価)					
講義回数	学習内容					
第1回	こどもの栄養と食生活(1)					
第2回	こどもの栄養と食生活(2)					
第3回	離乳食(1)					
第4回	離乳食(2)					
第5回	食育実践のための基本と実践法(1)					
第6回	食育実践のための基本と実践法(2)					
第7回	食育実践のための基本と実践法(3)					
第8回	食育実践のための基本と実践法(4)					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教科専門科目		
科目名	こどもの食と栄養		担当講師	成瀬 暁子		
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	『こどもの食と栄養』 久保田絹江					
学習目標	ヒトが動物としてまた、人間らしく生きていくために何をどのように食べるべきなのかという基本を理解する。そのうえで、それを暮らしの中にどのような具体的形で、こどもたちに伝えていくのかということをしっかり理解し考え身に付ける。					
成績評価の方法と基準	食についての理解レポート課題提出と科目試験によるSABCDによる5段階評価					
講義回数	学習内容					
第1回	栄養に関する基本概念と栄養素についての理解					
	食事摂取基準・献立作成および食品についての理解					
第2回	ライフステージ毎のこどもの発育発達と食生活についての理解					
	こどもの食生活の現状と課題についての理解					
第3回	食育実践のための基礎知識					
	保育所食育指針および食育基本法の理解と実践のための計画評価環境整備					
第4回	特別な配慮を要するこどもへの対応					
	食物アレルギーについての理解					
第5回	家庭養護と施設養護					
	社会的養護に関わる専門職					
第6回	社会的養護に関する社会的状況					
	施設等の運営管理					
第7回	被措置児童等の虐待防止					
	社会的養護と地域福祉					
第8回	保育現場における社会的養護の現状と課題					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教科専門科目		
科目名	障害児保育(スクーリング)		担当講師	山田裕一		
対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	障害児保育(配本テキスト)、講師作成資料					
学習目標	「障害」とは個人に属するものとする「医療モデル」の考え方が支配的だった。しかし、個人と社会との間に「障害」が存在すると考える「社会モデル」の考え方に国際的にも大きく転換しつつある。社会モデルの視点を前提としたインクルーシブな保育のあり方を「障害がある」子どもの保育を通して考察し、対話する機会としたい。					
成績評価の方法と基準	授業態度、グループワークの記録、レポート等で総合的に行う					
講義回数	学習内容					
第1回	「障害」の医療モデルと社会モデル					
第2回	障害児保育を取り巻く具体的概念と法制度(ICF・障害者差別解消法・障害者総合支援法等)					
第3回	統合保育・インクルーシブ保育とは(実践と課題)					
第4回	子どもの多様な発達の仕方を考慮した保育の課題					
第5回	子どもの障害と保育における課題(身体障害)					
第6回	子どもの障害と保育における課題(知的障害)					
第7回	子どもの障害と保育における課題(難病)					
第8回	子どもの障害と保育における課題(精神障害)					
第9回	子どもの障害と保育における課題(発達障害)					
第10回	療育概念の歴史的変遷と児童発達支援事業					
第11回	差別解消と合理的配慮の視点と課題					
第12回	相談支援を核とした関係機関との連携					
第13回	障害児を持つ子どもの親の心理社会的状況と子育て支援のあり方					
第14回	地域の社会資源と連携・協働における課題					
第15回	教育・福祉機関との連携と役割分担のあり方					
	インクルーシブな社会を創るきっかけとなる障害児保育					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分	教科専門科目	
科目名	こどもの保健			担当講師	谷尾真理子	
対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	こどもの保健					
学習目標	①子どもの身体的発育・発達段階を理解し、保育実践に活かす。 ②子どもを取り巻く多様な環境を理解し、他者との連携を取りながら保育を行うことができる。					
成績評価の方法と基準	・レポート:ルーブリック評価(50%) ・試験(S・A・B・C・D:5段階)(50%)					
講義回数	学習内容					
第1回	子どもの心身の健康と保健の意義 ①子どもの健康の概念					
第2回	保健活動の意義 ①子どもの健康指標 ②現代社会における子どもの健康に関する現状と課題					
第3回	地域における保健活動と虐待防止					
第4回	子どもの身体的発育・発達と保健 ①身体発達・運動機能の発達 ②生理的機能の発達状態					
第5回	子どもの心身の健康状態 ①健康状態の観察 ②心身の不調等の早期発見 ③発育・発達の把握 ④健康診断					
第6回	障害のある子どもへの対応 ①保護者との連携・共有					
第7回	子どもの疾病の予防及び適切な対応 ①主な疾病の特徴 ②疾病の予防と適切な対応					
第8回	感染症対策					
第9回	災害対策					
第10回	事故防止・安全対策					
第11回	健康及び安全管理の実施 ①職員間の連携・協働を念頭に組織的な取り組み					
第12回	プライバシーの保護・守秘義務					
第13回	保護者に対する子育て支援					
第14回	地域の関係機関との連携					
第15回	学生自身の振り返り(まとめ)					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教科専門科目	
科目名	表現とこどもの運動		担当講師	山部 優香里	
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位
講義方法	講義・演習				
使用教科書・使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・表現とこどもの運動(配本テキスト) ・「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) ・「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 				
学習目標	<p>①こども達が自分の考えを他者に伝えることができるため多くの表現ができる環境設定が大切であることを理解説明し身に付ける</p> <p>②年齢や環境に応じた動きや運動遊びと身体表現を通してこども同士がどう工夫し、表現し、仲間とよりよく関わっていくことができるかを、発達段階に沿って展開させることを学ぶ。</p> <p>③こども達が楽しく表現運動することができる安全性についても認識を深める。</p>				
成績評価の方法と基準	<p>①ルーブリック評価を用いて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 <p>②評価は5段階で行う。</p>				
講義回数	学習内容				
第1回	社会的背景を考慮しつつ ①運動遊びのねらい ②運動遊びの援助について(個別の支援計画等)				
第2回	こどもの発育と運動について ①身体・形態・機能・心の発育発達 ②こどもと運動				
第3回	運動遊びの基本的な動き ①基本運動(歩・走・跳・投・押・引・転・登) ②運動表現の要素(調整力:身体認知・空間認識)				
第4回	身体コントロール能力の向上 ①調整力中心の体づくり運動 ②音・色などの刺激に対応する運動				
第5回	こどもの表現運動Ⅰ ①表現運動実施の教育的意義 ②身体表現運動とは				
第6回	こどもの表現運動Ⅱ ①身体運動表現のねらい ②実施上の留意点				
第7回	発達段階と表現運動の実践(表現運動遊びの実践) ①年齢別発達における表現遊び(表現リズム運動、ごっこ遊び、おはじき等) ②手遊びとリズム表現(糸まき、アルプス一万尺、げんこつ山の狸さん、むすんでひらいて、アイアイ等)				
第8回	表現運動(運動遊び)における安全指導 ①安全管理について(安全の考え方、物的管理、人的管理、用具管理等)				

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教職専門科目		
科目名	こどもの健康と安全		担当講師	豊岡短期大学講師		
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	・「こどもの保健」配本テキスト ・「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)					
学習目標	最近のデータや関連するガイドライン等を通して、子どもの健康・安全にかかわる保健的対応を学び発達等に即した適切な具体的援助を学ぶ。スクーリング:演習を通して、実践力を高め具体的な対応や援助方法が、保育現場で活かせる。					
成績評価の方法と基準	スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する。(評価はルーブリック評価を用いる)					
講義回数	学習内容					
第1回	子どもの保健的観点を踏まえた保育環境及び援助①近年の子どもの健康と保育環境②集団全体の健康及び安全管理					
第2回	保育における感染症対策①子どもの感染症発生時と罹患後の対応②保育園での集団発生の予防③家庭・関係機関などの連携					
第3回	保育における健康・安全の危機管理①衛生管理②事故防止・安全対策③災害時の備え					
第4回	子どもの病気とその予防、適切な対応①体調不良や傷害が発生した時の対応②応急処置③救急処置・救急蘇生法					
第5回	特別な配慮を要する子どもへの対応①慢性疾患・アレルギー性疾患など②障害のある子どもへの対応					
第6回	健康管理・安全管理の連携の必要性①職員間の連携・協働と組織的取り組み②家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携③母子健康・小児保健・地域保健における自治体との連携					
第7回	保育における保健活動の計画及び評価					
第8回	学生自らのリフレクション					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教科専門科目		
科目名	こども家庭支援論		担当講師	濱田由美子		
対象学年	3 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「こども家庭支援論」 「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」					
学習目標	子育て家庭を取り巻く様々な社会的状況について把握し、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の現状と課題について理解を深める。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の変改を理解する。特別なニーズをもつ子育て家庭への支援方策として関係機関の連携等、各ニーズの特性を捉えながら学習する。					
成績評価の方法と基準	レポート課題提出と科目試験によるSABCDによる5段階評価					
講義回数	学習内容					
第1回	家族・家庭・世帯とは					
第2回	家族と家庭の形態と機能					
第3回	ライフステージ					
第4回	社会環境の変化と現代の家庭					
第5回	現代の家庭と子育てをめぐる問題					
第6回	要保護家庭の問題					
第7回	子育て家庭を支援する法・制度					
第8回	子育て家庭を支援する社会的資源					
第9回	新たな子育て支援制度					
第10回	子育て家庭支援の体系					
第11回	保育者による家庭支援の原理					
第12回	保育所における子育て支援					
第13回	地域における子育て家庭支援					
第14回	子ども家庭福祉の諸相					
第15回	要保護児童とその家庭に対する支援					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分	教科専門科目	
科目名	子育て支援			担当講師	一村 佑子	
対象学年	3 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	演習幼プリント教材・保育所保育指針解説書 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書					
学習目標	子育て支援における保育者の基本姿勢や役割、職務菜緒用について把握し、その知識及び技術を学び、実践事例を通して具体的に理解する。					
成績評価の方法と基準	スクーリングにおける受講態度及び終了試験の結果等総合的に評価 (受講態度20%、終了試験80%)					
講義回数	学習内容					
第1回	子育て支援が求められる社会的背景や保育相談支援の意義について					
第2回	支援の基本姿勢や倫理、保護者との信頼関係について					
第3回	支援の展開についてそのあり方や方法					
第4回	保育相談支援の実際や他機関との連携・協働について					
第5回	保育所等や地域の子育て家庭に対する支援について					
第6回	特別な配慮を要する子ども及び家庭の支援、虐待の予防と対応について					
第7回	幼保護児童等や多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解と支援					
第8回	終了試験					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分	教職専門科目	
科目名	教育原理			担当講師	松本俊博	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	教育原理(豊岡短期大学通信教育部テキスト) 幼稚園教育要領解説書 保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書					
学習目標	教育の思想とその作用、我が国の教育制度・理念・歴史について学ぶことにより教育の課題と可能性についての理解を深める。学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全に関する理解を深める。					
成績評価の方法と基準	・レポート:ルーブリック評価(50%) ・試験(S・A・B・C・D:5段階)(50%) 教育の基本的概念、理念、歴史及び思想について学び、教育や学校の変遷を理解する。現代の学校教育に関する社会的・制度的な仕組みを学ぶことにより学校と地域の連携及び学校安全の意義や必要性を理解する。					
講義回数	学習内容					
第1回	教育、教育原理の意義・目的・特性とこども家庭福祉等との関連性					
第2回	世界の教育思想①ソクラテス～ルソーの思想・実践					
第3回	世界の教育思想②ヘルバルト～デューイの思想・実践					
第4回	日本の教育思想					
第5回	子どもの発達と教育					
第6回	子どもの権利					
第7回	制度から見る保育所、幼稚園、認定こども園					
第8回	内容から見る保育所、幼稚園、認定こども園					
第9回	世界における教育の歴史的変遷					
第10回	日本における教育の歴史的変遷					
第11回	公教育制度、義務教育制度					
第12回	教師という仕事、教授法					
第13回	教育における今日的課題①学習指導要領の改訂に伴う幼児教育の変化					
第14回	教育における今日的課題②危機・安全管理カリキュラム、アクティブラーニング					
第15回	教育における今日的課題③学校外との連携					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教職専門科目		
科目名	教育心理学(スクーリング)		担当講師	豊岡短期大学講師		
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育心理学」(配本テキスト) ・「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) ・「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 					
学習目標	<p>①学習・人格・適応・発達・評価という教育心理学の基礎的な事項を理解し、その特徴を説明できる。</p> <p>②基礎的な知識を十分理解したうえで、その内容を子どもの育ちを支える教育・保育実践に生かす力を修得する。</p>					
成績評価の方法と基準	<p>ルーブリック評価を用いて行う。</p> <p>・スクーリングにおける受講態度や認定試験結果を総合的に評価する。</p> <p>※科目の評定は、科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う。</p> <p>※評定は5段階で行う。</p>					
講義回数	学習内容					
第1回	<p>子どもから大人への思考様式の変化</p> <p>①ピアジェの認知発達理論</p> <p>②思考発達段階ごとの特徴</p>					
第2回	<p>学びを支える記憶</p> <p>①感覚記憶、短期記憶、長期記憶</p> <p>②単純記憶から複雑記憶への変化</p>					
第3回	<p>子どもの学びの姿</p> <p>①日常生活からみる学習理論</p> <p>②オペラント条件付けを利用した保育実践</p>					
第4回	<p>子どものやる気を引き出す指導の在り方</p> <p>①指導者の態度(ピグマリオン効果)</p> <p>②様々な指導形態とその効果</p>					
第5回	<p>子どもの遊びの重要性</p> <p>①遊びの変化</p> <p>②遊びを通じた社会性の発達</p>					
第6回	<p>子どもと道徳</p> <p>①幼児期に迎える第一次反抗期と自立</p> <p>②道徳の指導方法</p>					
第7回	教育心理学を用いた環境づくり					
第8回	<p>発達課題に応じたかかわり</p> <p>①各段階の発達の特徴</p> <p>②エリクソンの発達課題</p>					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教職専門科目		
科目名	教育心理学		担当講師	藪田 秀子		
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育心理学」(配本テキスト) ・「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) ・「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 					
学習目標	<p>①学習・人格・適応・発達・評価という教育心理学の基礎的な事項を理解し、その特徴を説明できる。</p> <p>②基礎的な知識を十分理解したうえで、その内容を子どもの育ちを支える教育・保育実践に生かす力を修得する。</p>					
成績評価の方法と基準	<p>ルーブリック評価を用いて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ・評定は5段階で行う。 ・科目の評定は、スクーリングにおける受講態度や認定試験結果を総合的に評価する。 <p>※科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う。</p>					
講義回数	学習内容					
第1回	<p>教育心理学を学ぶ意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教育心理学における発達、学習、適応、評価と測定 ②教育心理学の四大領域を学ぶ意義 					
第2回	<p>発達の考え方とその理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ①生涯発達心理学の概念 ②各段階における発達の特徴(運動、言語、認知、社会発達) 					
第3回	<p>学習の仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ①連合説と認知説 ②様々な学習理論の応用 					
第4回	<p>主体的な学習を支える「やる気」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①内発的動機付けと外発的動機付け ②学習性無力感と自己効力感 					
第5回	<p>集団での学習とその評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学習指導の形態 ②評価の仕方とその意義 					
第6回	<p>動機付けからみる発見学習の仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ①発見学習の手続き ②発見学習により動機付けが高まる理由 					
第7・8回	教育心理学に基づく保育実践					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教職専門科目		
科目名	発達心理学		担当講師	山部 優香里		
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・「発達心理学」(配本テキスト) ・「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 					
学習目標	<p>①学習者は、実際の保育活動や、対人支援活動の中で生かせる様な知識を身につけることができる。</p> <p>②発達心理学の基礎的な理論および保育活動に重要な乳幼児期について重点的に学ぶ。</p> <p>③発達は生涯を通じて起こるものであることを理解し、生涯発達について概観的知識を得る。</p>					
成績評価の方法と基準	<p>①ルーブリック評価を用いて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況の確認: レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する。 <p>②評価は5段階で行う。</p>					
講義回数	学習内容					
第1回	発達心理学の定義、発達心理学で学ぶ内容の概要					
第2回	発達はどのように起こるか: 遺伝説と環境説、それらの複合説について					
第3回	動物における生理学的欲求とは異なる社会的行動					
第4回	ボウルビーによる愛着理論と、愛着の発達					
第5回	ストレンジシチュエーション法と、愛着理論の保育への活用					
第6回	乳児期の発達: 反射と表象の形成(ピアジェの感覚運動期を中心に)					
第7回	乳児期の発達: 表象の発達と、認知発達の特徴(ピアジェの前操作期を中心に)					
第8回	乳児期から児童期の発達: 運動・言葉・情緒・遊びの発達、自己認識や社会性の拡張					
第9回	児童期・青年期の発達: 社会性の拡張と、アイデンティティの確立					
第10回	成人期の発達: 親密性の確立と、現在の社会からみる青年期の課題・人間関係の課題					
第11回	壮年期・老年期の発達: 人格の完成と、死の受容					
第12回	ハヴィガースト及びエリクソンの発達課題から見る生涯発達心理学					
第13回	発達心理学と教育学の関連: 児童の発見から学校への適応					
第14回	保育に活用できる発達心理学: 発達課題、発達段階の理解による保育計画					
第15回	自身の学びに活用できる発達心理学: 生涯発達という観点から見て、自分自身の発達を捉える					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分	教職専門科目	
科目名	こどもの指導法「人間関係」			担当講師	豊岡短期大学講師	
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	「人間関係」(豊岡短期大学通信教育部配本テキスト)、幼稚園教育要領解説書 保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育解説書					
学習目標	現代のこどもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児(保育)教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。こどもを取り巻く他者との関係、集団との関係からこどもの人間関係を考察し、乳幼児が人との関わりを通じて育つことを理解する。					
成績評価の方法と基準	学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 (評価はルーブリック評価:SABCDの5段階)の5段階) 科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 (評価はルーブリック評価:SABCDの5段階)の5段階)					
講義回数	学習内容					
第1回	幼稚園教育要領領域「人間関係」のねらいと内容及びその取扱い、保育者としての役割について理解できる。					
第2回	保育者としての環境作りと評価 ・こどもの人間関係を見つめる目と環境設定(情報機器含む) ・保育構想と指導案(模擬保育)					
第3回	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助① ・対人意識・自己概念の発達 ・自己理解と他者理解を支える保育者の工夫					
第4回	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助② ・個と集団の育ちの姿 ・こどもの心の拠り所である保育者の工夫					
第5回	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助③ ・人とのかかわりとこどもの心の揺れ動きを支える保育者の工夫 ・集団におけるこども同士の芽生え、調和を支える保育者の工夫					
第6回	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助④ ・こどもの自己発揮・自己抑制を支える保育者の工夫 ・こどもの大切な育ちを捉える保育者の視点					
第7回	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助⑤ ・こども同士を結び付ける保育者の遊びの役割 ・こども同士を結び付ける遊びの保育計画(情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育)					
第8回	地域の人々との多様な関わりを導く保育計画及び小学校との交流を導く保育計画 (情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育)					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教職専門科目		
科目名	こどもの指導法「言葉」		担当講師	豊岡短期大学講師		
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) ・「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 					
学習目標	1乳幼児の言葉がどのような過程を経て獲得するか言語環境、非言語環境、信頼できる人とのふれ合い等もふまえて、コミュニケーションを図ることができるようになる。2こども自らが言葉を発することの意味を保育者、友達、保護者との関係から認識し理解できるようになる。3乳幼児期の言葉の重要性を、絵本、物語・言葉遊び文字体験活動なども加え、広範囲に役割が認識できるようになる。4こどもの心情・思考や行動などを育む保育者の言動のありか方が認識ができるようになる。5言葉の障害、外国籍の幼児について配慮、支援のあり方を認識し、理解できるようになる。					
成績評価の方法と基準	①ルーブリック評価を用いて行う。(スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する。)					
講義回数	学習内容					
第1回	幼児教育と言葉・言葉とは何か・生活と言葉、言葉環境としての保育者の言葉のあり方・領域「言葉」の位置づけと他領域との関わり					
第2回	乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価・領域「言葉」指導上の留意点と評価・0歳～5歳における言葉の発達、6歳の就学に向けた取り組み					
第3回	言葉を豊かに育む活動(1) <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びに関する情報機器及び教材の活用法 ・わらべうた、なぞなぞ、しりとり、ごっこ遊び、劇遊び等、言葉遊びによる指導案作成及び模擬保育 					
第4回	言葉を豊かに育む活動(2) <ul style="list-style-type: none"> ・言葉から文字へ、文字による環境 ・文字体験としてのカルタ・すごろく・絵カード等の制作(情報機器活用等)および模擬保育体験 					
第5回	保育者と言葉のあり方 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の遅れや障がいを持つ乳幼児の捉え方と支援 ・外国のこどもとの対応 					
第6回	言葉を豊かに育む活動(3) <ul style="list-style-type: none"> ・言語教材としての絵本の意義 ・絵本と、デジタル教材と保育現場の実際及び言語教材を用いた指導案の作成 					
第7回	言葉を豊かに育む活動(4) <ul style="list-style-type: none"> ・絵本、お話等の指導法と情報機器の利用について ・絵本、お話等の実践による指導案作成及び模擬授業 					
第8回	言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教職専門科目	
科目名	こどもの指導法「リズム表現」		担当講師	豊岡短期大学講師	
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位
講義方法	講義・演習				
使用教科書・使用教材	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型こども園教育・保育要領解説」				
学習目標	表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現領域から見出し、保育指導法を習得する。また、こどもの表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識も併せて習得し、表現に関する知識や保育実技の修得と実践を通じた感性や人間力の育成を目指す。				
成績評価の方法と基準	スクーリング中の実技と単位認定試験によるSABCDによる5段階評価				
講義回数	学習内容				
第1回	1 領域「表現」についての基本的な考え方 ①古代から近代における幼児教育の歴史的系譜をもとに「表現」についての洞察 ②保育要領における「表現」の指導法において求められる表現の捉え方と評価及び小学校の教科等とのつながりについての理解				
第2回	2 基礎リズム ①歩く、走る、スキップ、ギャロップなどの基礎リズムパターンの理解と指導上の留意点 ②幼児期の身体的・精神的発達をふまえた指導法の理解				
第3回	3 基本動作 ①幼児の心情・認識・思考及び動きをふまえた基本動作の実践 ②日常生活が表現につながる可能性に気づき、観察や模倣を通して幼児のイメージを豊かにする指導法の実践				
第4回	4 タブレット等の情報機器を用いた多様な振り付けの実践と理解 ①童謡やわらべうたについてタブレット等の情報機器や動作カードを活用した多様な振付の実践 ②幼児の表現したい気持ちを育む指導法の実践				
第5回	5 楽器の製作と活用、製作した楽器を用いての指導案の作成 ①楽器の取扱と身近な素材を使ったオリジナル楽器の製作と活用 ②指導案作成の基礎を理解し、オリジナル楽器を使った指導案の作成				
第6回	6 領域「表現」と小学校等のつながり ①オノマトペ(擬態語・擬音語・擬声語)の表現方法について ②領域「表現」と小学校とのつながり				
第7回	7 表現する力を育てるための保育者の役割と援助について、模擬保育の実践と振り返り ①絵本のストーリーを取り入れた模擬保育の実践 ②保育構想発展のための相互発表による振り返り				
第8回	8 リズム遊びを用いた模擬保育の実践と振り返り ①幼児が持つ表現への意欲と喜びを育むリズム遊びの創作 ②創作したリズム遊びを取り入れた模擬保育の実践 ③保育構想発展のための相互発表による振り返り				

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教職専門科目		
科目名	乳幼児保育 I		担当講師	石川弓子		
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・「乳幼児保育 I」(配本テキスト) ・「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児保育の意義・概念と歴史の変遷及び背景と制度について理解する。 2 保育所、家庭的保育等多様な保育の場における乳幼児保育の現状と課題について理解する。 3 3歳児未満の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4 乳幼児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 					
成績評価の方法と基準	<ol style="list-style-type: none"> ①ルーブリック評価を用いて行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況の確認:レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思想表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 ②評価は5段階で行う。 					
講義回数	学習内容					
第1回	乳幼児保育の意義・概念と歴史の変遷					
第2回	乳幼児保育の一般化への経緯					
第3回	乳幼児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題					
第4回	保育所における乳幼児保育					
第5回	保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育					
第6回	家庭的保育等における乳幼児保育					
第7回	3歳未満児の生活と環境					
第8回	3歳未満児の遊びと環境					
第9回	3歳以上児の保育に移行する時期の保育					
第10回	3歳以上児の保育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり					
第11回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮					
第12回	乳幼児保育における計画・記録・評価とその意義					
第13回	職員間の連携・協働					
第14回	保護者との連携・協働					
第15回	乳幼児保育と子育て支援					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教職専門科目			
科目名	保育内容総論		担当講師	濱田由美子			
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位		
講義方法	講義						
使用教科書・使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・「保育内容総論」(配本テキスト) ・「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) ・「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 						
学習目標	保育所や幼稚園・認定こども園における「保育」の全体構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶ。						
成績評価の方法と基準	<p>①ルーブリック評価を用いて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況の確認:レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 <p>②評価は5段階で行う。</p>						
講義回数	学習内容						
第1回	保育の全体構造 ①育みたい資質・能力の三つの柱と幼児教育の終わりまでに育てほしい10の姿 ②領域の考え方と乳幼児保育の領域						
第2回	保育内容の歴史的変遷 ①変遷にみる特徴 ②変遷に見る課題						
第3回	養護と教育の一体的展開 ①養護的なかかわりと教育的なかかわり						
第4回	乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 ①乳幼児にとっての園行事の意味と在り方 ②保幼小の円滑な連携						
第5回	生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開 ①環境を通して行う保育 ②遊びによる総合的な保育						
第6回	全体的な計画の作成と指導計画の作成 ①全体的な計画の作成 ②指導計画の作成手順と配慮						
第7回	保育の評価と保育の記録 ①幼児理解に基づく評価 ②観察記録を書く意味と幼児理解						
第8回	保育内容の現代的課題について ①子育て支援 ②多文化共生保育						

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分	教職専門科目	
科目名	こどもの理解と援助			担当講師	宮崎哲博	
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	こどもの理解と援助（配本テキスト）、講師作成資料					
学習目標	児童福祉法改正により保育士の役割として子育て支援を行う専門職であることが明確化された。子どもと保護者を取り巻く社会的状況や背景を踏まえた上で、ソーシャルワークの視点を持った支援や連携のあり方について多様な視点から学んでいく。					
成績評価の方法と基準	授業態度、グループワークの記録、レポート等で総合的に行う					
講義回数	学習内容					
第1回	子どもと保護者を取り巻く社会的状況の変化					
第2回	子どもの貧困とインフォーマルな支援					
第3回	子どもの多様な発達と「障害」					
第4回	相談援助とソーシャルワーク					
第5回	バイスティックの七原則(概要と対人援助職に必要な自己覚知)					
第6回	バイスティックの七原則(受容と共感の重要性)					
第7回	関係機関との協働・連携における視点と課題					
第8回	保育現場と外部におけるソーシャルワーク					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分	教職専門科目	
科目名	教育課程論			担当講師	松本俊博	
対象学年	1 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	教育課程論（豊岡短期大学通信教育部テキスト）・幼稚園教育要領解説書 保育所保育指針解説書、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書					
学習目標	幼児、こどもを育てる上で、大切なこと(目標)、どのような方法・手立て(方針)、どのような内容で、どの時期に、どんな環境で、等々を学ぶ。幼児教育・保育における教育課程・保育課程の意義と役割を明らかにする。					
成績評価の方法と基準	・レポート:ルーブリック評価(50%) ・試験(S・A・B・C・D:5段階評価)(50%) ・改定の経緯・要点、どのように学んだかを自分の言葉で説明できる。・教育課程・保育課程の意味や必要性、編成上の留意点、評価・改善について自分の言葉で説明できる。・学習内容関連の資料の収集と活用ができる。					
講義回数	学習内容					
第1回	教育課程・保育課程編成の基本的な考え方、意義と必要性					
第2回	カリキュラムの基礎理論					
第3回	日本における教育課程・各国の教育課程の変遷					
第4回	時代の変化に対応した幼稚園の教育課程の在り方、編成と評価					
第5回	教育課程の法と行政					
第6回	学習指導要領の変遷とその特色					
第7回	園生活と長期・短期の指導計画					
第8回	教育課程・保育課程編成の実際					
第9回	保育の基本と実践(記録及び省察による教育・保育の質向上)					
第10回	学びをつなぐ幼・保・小連携カリキュラム					
第11回	明治・大正・昭和前期、後期の保育の歴史					
第12回	危機管理保育のカリキュラムの意義と必要性					
第13回	幼稚園教育要領、保育所保育指針の変遷					
第14回	教育課程をめぐる諸問題					
第15回	信頼される園づくりと学校評議員制度					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教職専門科目		
科目名	教職論		担当講師	村木祐二		
対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・「教職論」(配本テキスト) ・「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) ・「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 					
学習目標	<p>①教職(保育)の意義、教職者(保育者)の役割・資質能力・職務内容等についての理解を深める。</p> <p>②教職(保育)はこどもの成長発達に指導、援助する仕事であることを理解し、教育(保育)への課題に関心を持ち、授業にかかわる専門性について学ぶとともに、あるべき教育(保育)のビジョンを明確にすることを主要なテーマにし、自分が目指す教職者像の確立を図る。</p>					
成績評価の方法と基準	<p>①ルーブリック評価を用いて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況の確認:レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 <p>②評価は5段階で行う。</p>					
講義回数	学習内容					
第1回	教職(保育)の意義・定義・教職(保育)者とは何か					
第2回	教職(保育)者に求められる資質・能力					
第3回	教員(保育者)養成の歴史					
第4回	教職(保育)者の資質と役割					
第5回	指導計画(保育のねらい・内容)					
第6回	教職(保育)者の仕事・義務・研修					
第7回	教職(保育)者の職場環境					
第8回	教職者の制度的な位置づけ					
第9回	教職者の任用とサービス					
第10回	教育(保育)現場における子どもとの関わり(あそび・環境)					
第11回	教育(保育)現場における家庭との連携・支援、地域との連携					
第12回	教職(保育)観の変遷と教員(保育者)の役割					
第13回	教員間の連携、保育園、幼稚園、小学校との連携(接続カリキュラム)					
第14回	今日的な教育課題に対応するために(「チーム学校」等)					
第15回	よい教職者(保育者)になるために(教育実習への心構え)					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教職専門科目		
科目名	教育方法論		担当講師	山部優香里		
対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育方法論」 (配本テキスト) ・「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版) (フレーベル館) 					
学習目標	教育方法の定義、意義、守備範囲の概念についての基本的知識を習得し、教育目標、教育内容、評価との関係性についての理解を深めるとともに、教育(保育)現場における様々な課題を解決する教育(保育)方法とその活用についての理解を深め、保育者として必要な資質を培う。					
成績評価の方法と基準	<p>①ルーブリック評価を用いて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況の確認: レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する。 <p>②評価は5段階で行う。</p>					
講義回数	学習内容					
第1回	教育方法の定義・意義と守備範囲					
第2回	教育方法の歴史的展開1(西欧の教育方法)					
第3回	教育方法の歴史的展開2(近・現代の教育方法)					
第4回	教育方法の歴史的展開3(日本の教育方法)					
第5回	教育技術の革新と情報機器の活用					
第6回	教材・教具の理解と活用					
第7回	特色ある教育実践					
第8回	教育現場における授業技術					
第9回	授業分析と授業評価					
第10回	授業展開の構想					
第11回	幼児の理解と幼児教育(保育)の方法(生徒指導との関係も踏まえて)					
第12回	近代以降の幼児教育(保育)方法					
第13回	幼稚園教育要領と幼保連携認定こども園教育・保育要領					
第14回	幼児教育(保育)内容と小学校の教育内容					
第15回	教育方法の課題と展望					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教職専門科目			
科目名	こどもの指導法「健康」		担当講師	豊岡短期大学講師			
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位		
講義方法	講義・演習						
使用教科書・使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) ・「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 						
学習目標	<p>①こどもの個々の健康状態を評価する態度を多領域から養う。</p> <p>②乳幼児に関する幅広い知識と個々の発育発達の状態にあった配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的な方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら子どもの積極的な健康づくり指導を目指す。</p>						
成績評価の方法と基準	<p>①ルーブリック評価を用いて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する。 <p>②評価は5段階で行う。</p>						
講義回数	学習内容						
第1回	領域「健康」の意味、保育の意義と児童観 ・子供の姿を「みる」「みきわめる」そして、「かかわる」ことからの「子ども理解」						
第2回	乳幼児の心身の発達、幼児期の心の発達、幼児期の身体発達 ・発達過程に応じた保育、全体計画編成の基本						
第3回	子どものこころの健康、こころの発達とストレスのサイン ・子どもの健康と虐待						
第4回	基本的生活習慣の獲得、幼児の生活スタイルの現状と問題点 ・食育に関する指導案を作成し、幼児の健康理解を図る。						
第5回	子どもの遊びの発達と健康、幼児の遊びを豊かにするための保育者の役割 ・発達に応じた遊びの指導案作成と模擬保育の振り返りからの理解						
第6回	安全管理と安全教育、交通安全指導、避難訓練 ・情報機器及び教材を活用した幼児の安全理解						
第7回	健康と自然環境 ・園外保育の指導案作成と模擬保育による留意点の学び、視聴覚教材を利用した自然環境の理解						
第8回	幼保小連携と保育内容「健康」のまとめ						

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教職専門科目		
科目名	こどもの指導法「環境」		担当講師	豊岡短期大学講師		
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) ・「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 					
学習目標	1保育内容「環境」のねらいと内容を理解する。2こどもを取り巻く様々な環境の理解と関心を持つ。3保育者の役割を常に考え、保育実践力をつける。					
成績評価の方法と基準	科目の成績評価:スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する。 (評価はルーブリック評価:SABCDの5段階を用いる)					
講義回数	学習内容					
第1回	環境とは(1)環境という言葉、環境の定義(2)環境を通して行う保育の意味					
第2回	領域「環境」の位置づけ(1)ねらいと内容(2)指導上の留意点と指導計画、評価の考え方					
第3回	身近な環境の構成(指導案の構成と作成)(1)指導案の作成による人的環境・物的環境の理解(2)視聴覚教材を利用した自然環境、社会・文化環境の理解					
第4回	保育における環境の重要性と小学校との連続性(1)好奇心・探求心(2)思考力の芽生え					
第5回	保育環境のデザイン(1)視聴覚教材を利用した室内・室外環境の理解(2)指導案の作成					
第6回	保育者3つの役割①環境要素の一つ②保育実践から見えるコーディネーター的存在③子ども同士の関わり合いから考える保育構想					
第7回	さまざまな環境との出会い(1)標識・文字との出会い(2)数量と図形・ものの性質との出会い					
第8回	こどもの遊びの世界における「3間」の意味と保育課題、指導案作成における3間の重要性と表示方法指導と小学校との連携理解					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教職専門科目		
科目名	こどもの指導法「造形表現」		担当講師	豊岡短期大学講師		
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・「造形表現論」配本テキスト ・「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) ・「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 					
学習目標	保育の内容を理解し、乳幼児を含めたこどもの造形の指導援助者として、こどもの発達と保育の中で取り扱う教材に必要な知識、さらに教材・用具の操作体験など実践学習を通して、体験的・技術的に学習する。1保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。2乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる。3乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。					
成績評価の方法と基準	科目の成績評価:スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する。(評価はルーブリック評価:SABCDの5段階を用い行う)					
講義回数	学習内容					
第1回	1「表現」領域及び小学校との連携(図画工作の学習指導要領)					
第2回	2造形教育の思想と指導法の推移及びこどもの発達段階における表現の特徴					
第3回	3こどもの発達段階における表現の指導・援助と評価					
第4回	4教材研究を伴う製作Ⅰ(えがく)					
第5回	5教材研究を伴う製作Ⅱ(つくる)					
第6回	6教材研究を伴う製作Ⅲ(ぞうけい)					
第7回	7教材研究を伴う製作Ⅳ(ぞうけい)					
第8回	8多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教職専門科目		
科目名	こどもの指導法「言語表現」		担当講師	豊岡短期大学講師		
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) ・「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 					
学習目標	乳幼児期における各発達段階のこどもに相応しい言語表現活動の展開と指導法を学習し、乳幼児期のこどもの言語表現活動を指導することが出来るような基本的知識と技法を身につけることを目標とする。スクーリング:乳幼児期の発達に応じた言語表現活動の指導法について述べることができる。					
成績評価の方法と基準	科目の成績評価:スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する。(評価はルーブリック評価:SABCDの5段階を用い行う)					
講義回数	学習内容					
第1回	1子どもの言語表現指導法と指導案の作成					
第2回	2児童文化財による乳幼児の言語表現活動(意義と範囲 指導法及び模擬保育の指導法)					
第3回	3言語表現が豊かになる児童文化財の指導(絵本の読み聞かせと紙芝居、わらべ歌遊びや言葉遊びの活用と留意点)					
第4回	4言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(1)絵本、紙芝居、パネルシアターペープサートの教材作成と情報機器の活用法及び指導法					
第5回	5言語表現を育む児童文化財の作成とその指導法(2)絵本、紙芝居、パネルシアターと情報機器を活用した指導案の作成及び模擬保育と評価方法・振り返り					
第6回	6言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(3)わらべ歌、遊び歌、しりとり、伝言ゲーム等の意義及び教材の活用と指導法。そしてそのAV教材活用と留意点。					
第7回	7言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(4)わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等のAV教材を活用した、指導案の作成と評価方法、および模擬保育と振り返り					
第8回	8年間指導計画への位置づけと指導案の作成、並びに保幼小連携について					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分	教職専門科目	
科目名	社会的養護Ⅱ			担当講師	宮崎哲博	
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	社会的養護内容（社会的養護Ⅱ）（豊岡短期大学通信教育部テキスト）、幼稚園教育要領解説書 保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書、DVD					
学習目標	社会的養護(現状・歴史・展望)の理解					
成績評価の方法と基準	・レポート(試験)評価 (S・A・B・C・D:5段階評価)					
講義回数	学習内容					
第1回	社会的養護の概要					
第2回	社会的養護の歴史					
第3回	虐待について					
第4回	子どもの権利擁護とは					
第5回	社会的養護の体系					
第6回	社会的養護の小規模化・地域化について					
第7回	里親制度の現況と課題					
第8回	社会的養護の課題と展望					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教職専門科目		
科目名	こどもの理解と相談支援		担当講師	山部 優香里		
対象学年	3 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・「こどもの理解と相談支援」配本テキスト ・「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) ・「幼保連携型こども園・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 					
学習目標	<p>①子どもを理解するために、乳幼児の発達及び学び並びにその過程で生じるつまづき、その要因を把握するための原理について学ぶ</p> <p>②幼児教育(保育)現場における相談支援を学び、子どもが自己理解を深め、好ましい人間関係を築き、集団の中で適応的に生活する力を育むことを支援できることを目指す。</p> <p>③個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動の在り方について、こどもの発達の状況に即した支援ができるよう、心理的特質や教育課題を捉える力を身につけるとともに、本人またはその親や保護者などに助言、指導、そして場合によってはカウンセリングを行えるようになることを目指す。</p> <p>④より良い教育の方向を求めて指導助言ができる基礎理論と実際について学ぶ。</p>					
成績評価の方法と基準	<p>①ルーブリック評価を用いて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況の確認:レポート課題におけるの専門知識の理解、獲得及び思考表現により評価する。 ・科目の成績評価:科目試験の結果により判定し評価する。 <p>②評価は5段階で行う。</p>					
講義回数	学習内容					
第1回	子どもの実態に応じた発達や学びの把握(こどもの理解の意義、養護保育の一体的展開、幼児理解を深める教師の基礎的な態度)					
第2回	相談支援の基本 相談支援の基本・カウンセリングの基本(意義・理論)とカウンセリングの基本的な方法					
第3回	子どもを理解する視点①(こどもの生活や遊び、保育の人的環境、子ども相互の関わり、集団における経験)					
第4回	子どもを理解する視点②(葛藤やつまづき、保育環境の理解と構成、環境の変化や移行)					
第5回	子どもを理解する方法①(知能検査・発達検査・行動観察法、他)					
第6回	子どもを理解する方法②(観察・記録・省察・評価)					
第7回	子どもを理解する方法③(職員間の情報共有、保護者との情報共有)					
第8回	子どもの自己理解を進める技法 こどもの自己表現と自己理解の発達					
第9回	幼児・子供理解とカウンセリング・マインド(実際のカウンセリングと教師の行う相談支援の違いを理解する・教師の行う相談支援の理解を深める)					
第10回	幼稚園・保育園における園児への心理的援助及びその保護者との相談支援					
第11回	小学校における児童への心理的援助及び保護者との相談支援					
第12回	相談支援の実際①(発達障害、知的障害、自閉・情緒障害、特別な配慮を要する子どもたち)					
第13回	相談支援の実際②(不登園・不登校、いじめ、虐待・非行と小・中学生の心理アセスメント)					
第14回	相談支援と家庭・学校・地域との連携と相談支援(幼・小の連携、親との連携)					
第15回	相談支援の課題と対応(教育相談における校内支援体制、相談支援計画の作成)					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教職専門科目	
科目名	特別支援教育		担当講師	谷尾 真理子	
対象学年	3 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位
講義方法	講義				
使用教科書・使用教材	特別支援教育（豊岡短期大学通信教育部配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説：文部科学省」（最新版）（フレーベル社） 「保育所保育指針解説：厚生労働省」（最新版）（フレーベル社） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説：内閣府・文部科学省・厚生労働省」（最新版）（フレーベル社）				
学習目標	特別な教育的ニーズを有する子どもが幼稚園・保育所の中でそれぞれの自主性・自発性を発揮し、生きる力の基礎を培うために、特別な教育的ニーズのある子どもの生活上および認知機能における困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。 《レポート》 インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを説明することができる。視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児の生活上および認知機能における困難についての基礎的な知識を説明することができる。 《科目試験》 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について、個別の教育計画の役割を踏まえながら例示することができる。関係機関の位置づけやその必要性について説明することができる。				
成績評価の方法と基準	科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する。 （評価はルーブリック評価：SABCDの5段階を用いる）				
講義回数	学習内容				
第1回	1. 特別な教育的ニーズを持つ子供への教育課程 ①特別な教育的ニーズとは何か ②特別支援教育課程と学びの場				
第2回	2. 発達障害や軽度知的障害を持つ子供の特性 ①発達障害や軽度知的障害の心と体の育ち ②子供一人ひとりのニーズに合わせた学び				
第3回	3. 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある子供の特性 ①多様な子供のニーズの理解 ②多様な子供の学びと生活				
第4回	4. 子供のニーズに合わせた支援 ①教育課程における支援 ②通常の学級における担任における支援				
第5回	5. 教育チームによる組織的支援 ①個別の指導計画及び個別の教育支援計画 ②アセスメントに基づく計画と評価				
第6回	6. 特別支援教育コーディネーター ①特別支援教育コーディネーターの役割 ②外部教育資源との連携と協働				
第7回	7. 保護者・家庭支援と連携 ①保護者・家庭を取り巻く問題 ②保護者・家庭とのつながりの重要性				
第8回	8. 特別な教育的ニーズを考える。(現代的な視点から) ①母国語や貧困問題等による教育的ニーズの理解及び支援				

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分	教職専門科目	
科目名	保育実習 I (施設)			担当講師	山部優香里	
対象学年	1～2年	履修時数	80 時間	単位数	2 単位	
講義方法	実習					
使用教科書・使用教材	保育実習指導（豊岡短期大学通信教育部テキスト） ・ 保育所保育指針解説書 保育実習（施設）実習簿					
学習目標	保育実習の意義・目的、児童福祉施設の種類と役割について理解できる。 実習後は、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題・学習目標が設定できる。					
成績評価の方法と基準	・実習先：ルーブリック評価（50%） ・実習簿（S・A・B・C・D:5段階評価）（50%）					
講義回数	学習内容(重点項目)					
実習の内容	施設実習(主に観察実習)を通して、施設とは何か、その機能と現状を捉える。					
	実際に子どもたちと触れ合うことにより発達段階等を捉える。					
	毎日の記録を実習簿に記入することを通して、記録の重要性に気づき実習日誌の書き方を学ぶ。					
	社会人のマナー ほうれんそう(報告・連絡・相談)の重要性について学ぶ。					
	施設の職場構成と連携について学ぶ。					
	プライバシーの保護と守秘義務について学ぶ。					
	施設の職場構成と連携について学ぶ。					
	実習の種類(参観実習・参加実習・責任実習)とは何かについて学ぶ。					
緊急時の対応(ケガ・地震・火事等)、事故予防について学ぶ。						

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分	教職専門科目	
科目名	保育実習 I (保育所)			担当講師	石川弓子	
対象学年	1~2年	履修時数	80 時間	単位数	2 単位	
講義方法	実習					
使用教科書・使用教材	保育実習指導 (豊岡短期大学通信教育部テキスト) ・ 保育所保育指針解説書 保育実習(保育所) 実習簿 ・ 認定こども園教育要領保育所保育指針解説書					
学習目標	保育実習の意義・目的、児童福祉施設の種類と役割について理解できる。 実習後は、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題・学習目標が設定できる。					
成績評価の方法と基準	・実習先より:ルーブリック評価(50%) ・実習簿(S・A・B・C・D:5段階評価)(50%)					
講義回数	学習内容(重点項目)					
実習の内容	保育所実習(主に観察実習)を通して、保育所とは何か、その機能と現状を捉える。					
	実際に子どもたちと触れ合うことにより乳幼児の発達段階等を捉える。					
	毎日の記録を実習簿に記入することを通して、記録の重要性に気付き実習日誌の書き方を学ぶ。					
	保育技術の利用 絵本の読み方・手遊びの仕方・ピアノ等					
	社会人のマナー ほうれんそう(報告・連絡・相談)の重要性					
	保育所の職場構成と連携					
	プライバシーの保護と守秘義務					
	保育所の職場構成と連携					
	実習の種類(参観実習・参加実習・責任実習)とは何か					
緊急時の対応(ケガ・地震・火事等)、事故予防について						

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分	教職専門科目	
科目名	保育実習指導 I (スクーリング)			担当講師	山田裕一	
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	保育実習指導 (配本テキスト)、講師作成資料					
学習目標	保育士とは「保育」のプロフェッショナルであり、単に親に代わって子育てをするだけの存在ではない。保育現場での実習を通して、実習ではプロになるための意識や必要なスキルについて体感する機会となる。講義だけでなく、グループワークを通じて、実習に向けて必要な心構えや、自らの課題について検討することを目的とする。					
成績評価の方法と基準	授業態度、グループワークの記録、レポート等で総合的に行う					
講義回数	学習内容					
第1回	保育のプロであるということは何か					
第2回	対人専門職と自己覚知(自分と他人の強み・弱みを伝え合う)					
第3回	保育所の法的位置づけと保育所保育指針					
第4回	社会人として必要な心構えと実習におけるマナー					
第5回	実習の目的と意義					
第6回	子どもの発達とクラスにおける課題					
第7回	保育における子育て支援のあり方					
第8回	専門職倫理と実習に必要なプライバシーの配慮					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分	教職専門科目	
科目名	保育実習指導 I			担当講師	石川弓子	
対象学年	1 年	履修時数	30時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義・講義演習					
使用教科書・使用教材	保育実習指導（豊岡短期大学通信教育部テキスト） ・ 保育所保育指針解説書 幼稚園教育要領解説書・認定こども園教育要領保育所保育指針解説書					
学習目標	保育実習の意義・目的、児童福祉施設の種類と役割について理解できる。 実習後は、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題・学習目標が設定できる。					
成績評価の方法と基準	・レポート：合否判定（提出：保育実習事前スクーリング受講要件）					
講義回数	学習内容					
第1回	実習の意義・目的を理解する					
第2回	保育所とは何か、その現状と課題					
第3回	新保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領					
第4回	保育所の職場構成と連携					
第5回	社会人のマナー ほうれんそう（報告・連絡・相談）の重要性					
第6回	乳幼児の年齢別発達の特徴					
第7回	緊急時の対応（ケガ・地震・火事等）、事故予防について					
第8回	実習の種類（参観実習・参加実習・責任実習）とは何か					
第9回	実習日誌の書き方・保育指導案の立て方					
第10回	保育技術の利用 絵本の読み方・手遊びの仕方・ピアノ等					
第11回	児童福祉施設の種別及び特徴					
第12回	社会的養護の原理・原則および支援について					
第13回	プライバシーの保護と守秘義務					
第14回	児童福祉施設のお他職種および他機関との連携の仕方					
第15回	事後学習 実習の総括と自己評価 新たな課題や自己目標の明確化					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分	教職専門科目	
科目名	保育実習Ⅱ(保育所)*選択			担当講師	山部優香里	
対象学年	2年	履修時数	80 時間	単位数	2 単位	
講義方法	実習					
使用教科書・使用教材	保育実習指導(豊岡短期大学通信教育部テキスト) ・ 保育所保育指針解説書 保育実習(保育所) 実習簿 ・ 認定こども園教育要領保育所保育指針解説書					
学習目標	保育実習の意義・目的、児童福祉施設の種類と役割について理解できる。 実習後は、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題・学習目標が設定できる。					
成績評価の方法と基準	・実習先:ループリック評価(50%) ・実習簿(S・A・B・C・D:5段階評価)(50%)					
講義回数	学習内容(重点項目)					
実習の内容	保育所実習(主に観察実習)を通して、保育所とは何か、その機能と現状を捉える。					
	実際に子どもたちと触れ合うことにより乳幼児の発達段階等を捉える。					
	毎日の記録を実習簿に記入することを通して、記録の重要性に気付き実習日誌の書き方を学ぶ。					
	保育技術の利用 絵本の読み方・手遊びの仕方・ピアノ等					
	社会人のマナー ほうれんそう(報告・連絡・相談)の重要性					
	保育所の職場構成と連携					
	プライバシーの保護と守秘義務					
	保育所の職場構成と連携					
	責任実習について学ぶ。(立案・実施・反省・改善)					
	緊急時の対応(ケガ・地震・火事等)、事故予防について					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分	教職専門科目	
科目名	保育実習Ⅲ(施設)*選択			担当講師	山部優香里	
対象学年	2年	履修時数	80 時間	単位数	2 単位	
講義方法	実習					
使用教科書・使用教材	保育実習指導(豊岡短期大学通信教育部テキスト) ・ 保育所保育指針解説書 保育実習(施設)実習簿					
学習目標	保育実習の意義・目的、児童福祉施設の種類と役割について理解できる。 実習後は、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題・学習目標が設定できる。					
成績評価の方法と基準	・実習先:ループリック評価(50%) ・実習簿(S・A・B・C・D:5段階評価)(50%)					
講義回数	学習内容(重点項目)					
実習の内容	施設実習(主に観察実習)を通して、施設とは何か、その機能と現状を捉える。					
	実際に子どもたちと触れ合うことにより乳幼児の発達段階等を捉える。					
	毎日の記録を実習簿に記入することを通して、記録の重要性に気付き実習日誌の書き方を学ぶ。					
	保育技術の利用 絵本の読み方・手遊びの仕方・ピアノ等					
	社会人のマナー ほうれんそう(報告・連絡・相談)の重要性					
	施設の職場構成と連携					
	プライバシーの保護と守秘義務					
	施設の職場構成と連携					
	責任実習について学ぶ。(立案・実施・反省・改善)					
緊急時の対応(ケガ・地震・火事等)、事故予防について						

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教職専門科目		
科目名	保育実習指導Ⅱ(選択)		担当講師	山部優香里		
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「保育実習指導」(配本テキスト) 保育実習(保育所Ⅰ実習簿) 「保育所保育指針解説」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」					
学習目標	保育実習Ⅰで学習した保育所における保育の学びをさらに深め、発達援助の技術、生活援助の技術、関係性構築の技術、環境構成の技術、あそびを展開する技術について専門性と実践力を磨き、事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。					
成績評価の方法と基準	レポート課題提出による合否判定					
講義回数	学習内容					
第1回	保育実習Ⅰの振り返りと実践的な自己課題の決定(学びたいこと、頑張りたいこと等の決意)をする。					
第2回	子どもの発達、5領域のねらいと現場での視点について学ぶ。					
第3回	子どもの基本的な生活習慣の獲得と保育支援について学ぶ。					
第4回	遊びを展開するための知識等と環境設定の技術について学ぶ。					
第5回	子どもの心に寄り添うとは何かについて考え合う。					
第6回	環境構成の技術と人間関係構築の技術について学ぶ。					
第7回	責任実習に向けての保育実習案の立案の仕方と実施のための留意点について学ぶ。					
第8回	実習上の諸注意(保育者としての倫理、守秘義務、プライバシーの保護等)について学びまとめをする。					
第9・10回	事前レポートを作成する。					
第11・12回	実習簿を整理する。					
第13～15回	実習後事後レポートを作成する。					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教職専門科目		
科目名	保育実習指導Ⅲ(選択)		担当講師	山部優香里		
対象学年	2 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	「保育実習指導」 (配本テキスト) 保育実習(施設) 実習簿 「保育所保育指針解説」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」					
学習目標	児童福祉施設における保育者の専門性やそこで暮らす子どもや親について理解する。児童福祉施設以外の社会福祉施設について知り、老人福祉・障害者福祉における保育者の役割、施設内の連携や他機関との連携についても理解する。実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。					
成績評価の方法と基準	レポート課題提出による合否判定					
講義回数	学習内容					
第1回	児童福祉施設の施設種の理解・施設の現状と問題点について学ぶ。					
第2回	社会的養護の現状について学ぶ。					
第3回	自分の行く実習施設種を中心とした実習施設の現状と問題点について学ぶ。					
第4回	児童福祉施設における子どもの支援、親支援の現状について学ぶ。					
第5回	社会的弱者支援の基本(ノーマライゼーションの意味の理解・実践)について理解する。					
第6回	人権の保護とエンパワーメント、人間侵害とは何かについて理解する。					
第7回	個別支援計画と他機関との連携について学ぶ。					
第8回	事後指導における実習総括と評価活動をし、保育者としての課題の明確化にする。					
第9・10回	事前レポートを作成する。					
第11・12回	実習簿を整理する。					
第13～15回	実習後、事後レポートを作成する。					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教職専門科目		
科目名	教育実習事前・事後指導		担当講師	豊岡短期大学講師		
対象学年	1～3 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	教育実習事前・事後指導（豊岡短期大学通信教育部テキスト）・幼稚園教育要領解説書 幼稚園教育実習実習簿、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書					
学習目標	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特性や発達過程を踏まえ理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に臨む態度を育成する。また、実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。					
成績評価の方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・スクーリング受講態度や単位認定試験結果を総合的に評価する。ルーブリック評価(100%) ・教育実習に向けて学習の意義・目的を理解し、保育について知識・技能・態度等を総合的に学ぶことができたか。教育実習で行う手続き・準備・心構えを確認し、実習中に行う実技等を身に付けることができたか。 * 事前指導スクーリングでは、(学習のまとめ)も含めて100点満点で評価し、60点以上で合格すれば教育実習要件を一つ満たす。事後指導スクーリングにおいて、100点満点で評価し成績評価を行う。 					
講義回数	学習内容					
第1回	実習の意義と目的【幼稚園教育の特質・実習の意義と目的・保育者としての倫理(守秘義務・職務専念義務)】について学ぶ。					
第2回	教育実習の流れと手続き・内容について理解する。 (実習生としての心構え・事前相談・打ち合わせ)					
第3回	観察・参加・責任実習について学ぶ。 【 長期短期指導計画・短期指導計画、子どもを取り巻く環境(環境構成)・幼児理解と保育 】について理解する。					
第4回	教師の援助について学ぶ。 (保護者理解と支援・特別な支援を要する子どもへの対応)					
第5回	実践演習(手遊び・読み聞かせ)をする。					
第6回	指導案を作成する。(1 指導案とは何かについて学ぶ)					
第7回	指導案を作成する。(2 指導案作成の実際について学ぶ)					
第8回	実習の総括と評価を行い、課題の明確化を図る。(幼児理解 ・保育者の活動からの学び)					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教職専門科目		
科目名	教育実習		担当講師	濱田由美子		
対象学年	3 年	履修時数	160 時間	単位数	4 単位	
講義方法	実習					
使用教科書・使用教材	教育実習事前事後指導テキスト(豊岡短期大学通信教育部配本) 幼稚園教育実習の実習簿・幼稚園教育要領解説書					
学習目標	幼稚園の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、幼稚園の機能と、そこでの保育士の職務について学ぶ					
成績評価の方法と基準	実習における態度や実習簿等を総合的に評価する(評価はルーブリック評価を用いる)					
講義回数	学習内容					
実習の内容 (実習2回)	実習園について理解する。					
	一日の流れを自ら参加しながら具体的に理解する。					
	幼児との関わりと観察を通して、その発達を理解する。					
	幼稚園での教育課程、指導計画の実践を通して理解する。					
	生活や学びの一部を担当し、保育技術を習得する。					
	職員の役割分担とチームワークについて理解する。					
	記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して、家庭や地域社会を理解する。					
	こどもの最善の利益を具体化する方法を学ぶ					
	幼稚園教諭としての倫理を具体的に学ぶ。					
	安全及び疾病予防への配慮について理解する。					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分	教職専門科目	
科目名	保育・教職実践演習			担当講師	豊岡短期大学講師	
対象学年	3 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	「保育・教職実践演習」(豊岡短期大学通信教育部配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館) 「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)					
学習目標	○授業で学んだ学習知と教育実習で得られた実習知を統合し確かな実践的指導力を身に付ける。 ・保育における集団編成についての学びを幼稚園教育の理解へと発展させる。 ・試験: 幼稚園教育に特に必要な学習知を確認してより実践的な教員の養成を図る。 ・授業の学習知を基に実践知を統合し確かな実践的指導力を身に付け教職への意欲を醸成する。					
成績評価の方法と基準	・受講態度、単位認定試験結果等を総合的に評価。(ルーブリック評価:SABCD5段階) * 科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う。(SABCD5段階評価)					
講義回数	学習内容					
第1回	ガイダンスを聞く。					
第2回	学級経営における臨床場面での教師の対応 I (ロールプレイングでの学習)。					
第3回	保育場面での対応(事例研究)課題のある子ども(幼児)の事例研究をする。					
第4回	集団討論 I 「教育課題の解決への教師としてのアプローチ」について考える。					
第5回	保育計画をもとに模擬保育を行い学び合う。					
第6回	統合保育・異年齢保育に関わる課題と展望について学ぶ。					
第7回	「幼保小連携」子どもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方について学ぶ。					
第8回	学習のまとめをする。(・自己の振り返り ・今後に向けての課題)					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分	教職専門科目	
科目名	保育・教職実践演習			担当講師	山口悦子	
対象学年	3 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	「保育・教職実践演習」(豊岡短期大学通信教育部配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館) 「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)					
学習目標	○授業で学んだ学習知と教育実習で得られた実習知を統合し確かな実践的指導力を身に付ける。 ・レポート: 保育における集団編成についての学びを幼稚園教育の理解へと発展させる。 ・科目試験: 幼稚園教育に特に必要な学習知を確認してより実践的な教員の養成を図る。 ・授業の学習知を基に実践知を統合し確かな実践的指導力を身に付け教職への意欲を醸成する。					
成績評価の方法と基準	・レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価をする。 ・科目試験の結果により判定し評価する。(どちらもルーブリック評価: SABCDの5段階)					
講義回数	学習内容					
第1回	教師という職業について学ぶ					
第2回	学級経営についての基礎理論について学ぶ					
第3回	特別支援教育の法体系等基礎について学ぶ。					
第4回	特別支援教育と教師・保育者の役割について学ぶ。					
第5回	保育における集団の編成の効果について学ぶ。					
第6回	幼児教育の将来的展望について学ぶ。					
第7回	幼保小連携について実践的に考える。					
第8回	幼保小連携について実践的に考える。					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分	教職専門科目	
科目名	乳幼児保育Ⅱ			担当講師	山田裕一	
対象学年	3 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	乳幼児保育（配本テキスト）、講師作成資料					
学習目標	現代社会は乳幼児保育の社会的意義が大きく問われている。社会における乳児保育が果たす役割を十分に理解した上で、子どもとの向き合い方、保護者に対する子育て支援を行うに当たって必要な知識・スキル・連携のあり方について学ぶ。					
成績評価の方法と基準	授業態度、グループワークの記録、レポート等で総合的に行う					
講義回数	学習内容					
第1回	乳幼児保育の社会的意義と歴史的変遷					
第2回	子どもを取り巻く現状と子育て支援					
第3回	子どもの発達段階を踏まえた保育のあり方					
第4回	多様な発達の仕方を考慮した乳幼児保育における視点					
第5回	保育所における乳幼児保育と課題					
第6回	保育所以外での乳幼児保育と課題					
第7回	職員間における協働・連携					
第8回	地域において必要な協働・連携					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	教職専門科目	
科目名	こどもの指導法「音楽表現」		担当講師	豊岡短期大学講師	
対象学年	1～3 年	履修時数	30 時間	単位数	2単位
講義方法	講義・演習				
使用教科書・使用教材	「こどもと音楽表現」「音楽表現論」「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型こども園教育・保育要領解説」				
学習目標	領域「表現」の「音楽表現」に視点を置き、領域「表現」の全体目標への到達を目指し、より具体的、実践的、対話的な保育実践の方法を習得する。				
成績評価の方法と基準	スクーリング中の実技と単位認定試験によるSABCDによる5段階評価				
講義回数	学習内容				
第1回	1 領域「表現」における目標と「ねらい」及び「内容」の理解 表現活動を支える伴奏についての基礎知識の修得と実践				
第2回	2 乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の理解 表現活動における伴奏の方法と実践				
第3回	3 映像視聴による身近にある音楽風景「自然の音」「身のまわりの音」への気付きと表現方法 サウンドスケープや映像視聴などの実践と楽器による表現及び伴奏法				
第4回	4 声の仕組み「歌う」表現活動の理解 乳幼児の発達とその表現活動を促す伴奏法				
第5回	5 映像を活用した0、1、2歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践 乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法				
第6回	6 映像を活用した3、4、5歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践 乳幼児の「声」に合わせた表現活動を支え引き出す伴奏法				
第7回	7 「わらべうた」や「伝承遊び」などにおける実践 「わらべうた」や「伝承遊び」などに親しむための指導法				
第8回	8 領域「表現」と他の領域とのかかわりの理解と応用 他領域と関連した生活や行事などをテーマにした曲の理解と弾き歌いの実践				
第9回	9 指導計画に基づいた指導案の作成のポイントと模擬保育の進め方 模擬保育に使用する歌や曲の選曲及び教材研究とその伴奏・効果音の研究				
第10回	10 指導案作成における環境構成及び保育者の援助の確認と模擬保育の留意点 模擬保育に使用する歌や曲の教材研究と伴奏法の実践				
第11回	11 模擬保育「いろいろな音を集めてあそぼう」の実践と指導案の討議 模擬保育での弾き歌い・伴奏法の実践				
第12回	12 模擬保育「わらべうた・伝承遊びを楽しむ」の実践と指導案の討議 模擬保育でのわらべうた・伝承遊びの弾き歌いと伴奏法の実践				
第13回	13 模擬保育「自然物や身近な素材を活かして楽器遊びをしよう」の実践と指導案の討議 模擬保育での弾き歌い及び楽器遊びの教材研究と伴奏法の実践				
第14回	14 ポートフォリオなどを活用した「音楽表現の可視化」の実践と「学びの振り返り」の理解 保育活動を音楽表現で構成する手法と伴奏法の実践				
第15回	15 小学校1年生、教科「音楽」への接続と学びの連続性についての理解とまとめ				

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	学校設定科目		
科目名	ピアノ実技 I		担当講師	水黒博子		
対象学年	1 年	履修時数	15 時間	単位数	1 単位	
実務経験	合唱団に所属し、器楽演奏のピアノ伴奏、ボイストレーナーとしての経験から、楽譜の読み方、ピアノ実技と弾き歌いを指導する。					
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	『こどもと音楽表現』西野洋子 豊岡短期大学通信教育部 『幼児のための音楽教育』改定幼稚園教諭・保育士養成課程					
学習目標	音楽表現に視点を置き、基本的な保育実践の方法を習得する					
成績評価の方法と基準	ピアノ実技と弾き歌い、ソルフェージュ歌唱によるSABCDの5段階評価					
講義回数	学習内容					
第1回	楽譜の読み方 指使いの重要性と臨時記号の意味・譜面上での右手と左手の組み合わせ方について					
第2回	楽譜の読み方 メロディーの繰り返しの読み取り方について					
第3回	バイエル課題曲 全体像のつかみ方・難所の練習方法について					
第4回	ソルフェージュ課題曲 リズムの読み方、音程の取り方、ブレスとメロディーラインについて					
第5回	試験楽曲の強弱付け演奏法のポイントについて					
第6回	試験楽曲を暗譜をして止まらずに演奏するためのテクニック					
第7回	生活のうた「おはようのうた」「お弁当のうた」他					
第8回	こどもの歌「ドレミのうた」「アイアイ、思い出のアルバム」他					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	学校設定科目		
科目名	ピアノ実技Ⅱ		担当講師	水黒博子		
対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
実務経験	合唱団に所属し、器楽演奏のピアノ伴奏、ボイストレーナーとしての経験から、楽譜の読み方、ピアノ実技と弾き歌いを指導する。					
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	『こどもと音楽表現』西野洋子 豊岡短期大学通信教育部 『幼児のための音楽教育』改定幼稚園教諭・保育士養成課程					
学習目標	音楽表現に視点を置き、より具体的、実践的な保育実践の方法を習得する					
成績評価の方法と基準	ピアノ実技と弾き歌い、ソルフェージュ歌唱によるSABCDの5段階評価					
講義回数	学習内容					
第1回	楽譜の読み方① 指使いの重要性と臨時記号の意味・右手と左手の組み合わせ方について					
第2回	楽譜の読み方② メロディーの繰り返しの読み取り方について					
第3回	バイエル課題曲1の全体像のつかみ方について「繰り返しの音楽」					
第4回	バイエル課題曲1の難所①の練習方法について「転調の意識づけ」「ハ長調の音階」					
第5回	バイエル課題曲1の難所②の練習方法について「ハ長調のメロディー音階の弾き方」「左手の規則性」					
第6回	ソルフェージュ課題曲1・2 リズムの読み方、音程の取り方、ブレスとメロディーラインについて					
第7回	バイエル課題曲2の全体像のつかみ方について「繰り返しの音楽」「3拍子の理解」					
第8回	バイエル課題曲2の難所①の練習方法について「右手2の指の動き方」「つなぎ目の右手旋律」					
第9回	バイエル課題曲2の難所の練習方法について「左手の指を独立させてしっかり動かす」					
第10回	試験楽曲の強弱付け演奏法のポイントについて「一定のテンポの重要性」					
第11回	試験楽曲の強弱付け演奏法のポイントについて「ディミヌエンドとリタルダンドの関係」					
第12回	試験楽曲の強弱付け演奏法のポイントについて「表現方法が変わるところ」					
第13回	試験楽曲の強弱付け演奏法のポイントについて「力を抜くところ・一気に弾くところ」					
第14回	試験楽曲の暗譜の仕方について「曲の全体像を細分化して理解する」					
第15回	試験楽曲の暗譜の仕方について「音色は色でイメージする」					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	学校設定科目		
科目名	ピアノ実技Ⅲ		担当講師	水黒博子		
対象学年	3年	履修時数	90 時間	単位数	6 単位	
実務経験	合唱団に所属し、器楽演奏のピアノ伴奏、ボイストレーナーとしての経験から、楽譜の読み方、ピアノ実技と弾き歌いを指導する。					
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	『こどもと音楽表現』西野洋子 豊岡短期大学通信教育部 『幼児のための音楽教育』改定幼稚園教諭・保育士養成課程					
学習目標	音楽表現に視点を置き、より具体的、実践的、対話的な保育実践の方法を習得する					
成績評価の方法と基準	ピアノ実技と弾き歌い、ソルフェージュ歌唱によるSABCDの5段階評価					
講義回数	学習内容					
第1回	楽譜の読み方① 指使いの重要性と臨時記号の意味について					
第2回	楽譜の読み方② 譜面上での右手と左手の組み合わせ方について					
第3回	楽譜の読み方③ メロディーの繰り返しの読み取り方について					
第4回	バイエル課題曲1の全体像のつかみ方について「繰り返しの音楽」					
第5回	バイエル課題曲1の難所①の練習方法について「転調するところの意識づけ」					
第6回	バイエル課題曲1の難所①の練習方法について「ハ長調のメロディー音階の弾き方」					
第7回	バイエル課題曲1の難所②の練習方法について「ヘ長調のメロディー音階の弾き方」					
第8回	バイエル課題曲1の難所①②の練習方法について「左手の規則性について」					
第9回	ソルフェージュ課題曲1 リズムの読み方、音程の取り方、ブレスとメロディーラインについて					
第10回	ソルフェージュ課題曲2 リズムの読み方、音程の取り方、ブレスとメロディーラインについて					
第11回	バイエル課題曲2の全体像のつかみ方について「繰り返しの音楽」					
第12回	バイエル課題曲2の練習方法について「3拍子を理解する」					
第13回	バイエル課題曲2の難所①の練習方法について「右手2の指の動き方」					
第14回	バイエル課題曲2の難所②の練習方法について「つなぎ目の右手旋律の入り方」					
第15回	バイエル課題曲2の難所の練習方法について「左手の指を独立させてしっかり動かす」					
第16回	試験楽曲の強弱付け演奏法のポイントについて「一定のテンポの重要性」					
第17回	試験楽曲の強弱付け演奏法のポイントについて「ディミヌエンドとリタルダンドの関係」					
第18回	試験楽曲の強弱付け演奏法のポイントについて「表現方法が変わるところ」					
第19回	試験楽曲の強弱付け演奏法のポイントについて「力を抜くところ・一気に弾くところ」					
第20回	試験楽曲の暗譜の仕方について「曲の全体像を細分化して理解する」					
第21回	試験楽曲の暗譜の仕方について「音色は色でイメージする」					
第22回	試験楽曲の暗譜の仕方について「メロディーの動機の部分を意識する」					
第23回	試験楽曲の暗譜の仕方について「変化するきっかけの部分を意識する」					

第24回	試験楽曲を暗譜をして止まらずに演奏するためのテクニック「音の流れを感じながらフレーズを切る」
第25回	試験楽曲を暗譜をして止まらずに演奏するためのテクニック「移動場所の目当ては黒鍵盤」
第26回	試験楽曲を暗譜をして止まらずに演奏するテクニック「音切でスムーズな移動が可能となる」
第27回	試験楽曲を暗譜をして止まらずに演奏するテクニック「音楽は常に流れていると感じる」
第28回	生活のうた『おはようのうた、お弁当のうた、お帰りのうた』他の復習
第29回	生活のうた『おはようのうた、お弁当のうた、お帰りのうた』他の復習(歌詞の確認)
第30回	生活のうた『おはようのうた、お弁当のうた、お帰りのうた』他の復習(暗譜)
第31回	生活のうた『おはようのうた、お弁当のうた、お帰りのうた』他の復習(弾き歌い)
第32回	こどもの歌『ドレミの歌』(歌詞の確認、弾き歌い)
第33回	こどもの歌『アイアイ』(歌詞の確認、弾き歌い)
第34回	こどもの歌『思い出のアルバム』(歌詞の確認、弾き歌い)
第35回	こどもの歌『ドレミの歌、アイアイ、思い出のアルバム』まとめ
第36回	季節の歌『おはながわらった』(歌詞の確認、弾き歌い)
第37回	季節の歌『しゃぼんだま』(歌詞の確認、弾き歌い)
第38回	季節の歌『ひなまつり』(歌詞の確認、弾き歌い)
第39回	季節の歌『おはながわらった、しゃぼんだま、ひなまつり』まとめ
第40回	自由選択曲『あしたははれる、にじ、ジブリ』他(面接試験の楽曲をマスターする)
第41回	自由選択曲『あしたははれる、にじ、ジブリ』他(最初の一音、ワンフレーズで決まる)
第42回	自由選択曲『あしたははれる、にじ、ジブリ』他(演奏家の気持ちの伝え方)
第43回	自由選択曲『あしたははれる、にじ、ジブリ』他(暗譜の重要性・緊張を力に変える方法について)
第44回	自由選択曲『あしたははれる、にじ、ジブリ』他(表現したいものは何かをはっきりさせる)
第45回	自由選択曲演奏発表

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	学校設定科目		
科目名	パソコン実技 I		担当講師	木下幹朗		
対象学年	2 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
実務経験	パソコンスクールで勤務しPC・ITインストラクター業務やホームページ制作代行に従事した経験から、パソコンを使用したレイアウト文書の作成、表計算作成、画像を用いたPOP作成を指導する。					
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	講師が準備するプリントや資料					
学習目標	パソコンの基礎操作と実践的な操作ができる 文書作成、表作成ができる					
成績評価の方法と基準	講義の最後に行う確認試験の成績 授業中に提出するデータの完成度					
講義回数	学習内容					
第1回	パソコンの状態確認、Windowsの基本操作、タイピング練習					
第2回	ビジネス文書作成(文字書式、段落書式、タブとリーダー)					
第3回	ビジネス文書作成(総合問題)					
第4回	POP・文書作成(図形、画像、SmartArt、ドロップキャップ)					
第5回	POP・文書作成(総合問題)					
第6回	ラベル作成と差し込み文書、メールのルールと添付データ					
第7回	表計算作成(表作成、四則演算、グラフ)					
第8回	表計算作成(表作成、応用関数)					
第9回	パソコンの状態確認、マウス練習、タイピング練習、デスクトップの使い方、フォルダ作成する					
第10回	タイピング練習、ビジネス文書作成(文字入力、IMEパッド、横位置変更、フォント編集)					
第11回	タイピング練習、POP・文書作成(テキストボックスを使った自由なレイアウト文書の作成)					
第12回	文書作成「園だより」(ページ設定、テキストボックス、図形、画像)完成後に印刷をする					
第13回	表計算作成(表作成、SUM関数、AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数、COUNT関数)					
第14回	データベース操作(並び替えとフィルター)					
第15回	総まとめ(Wordの文書作成とExcelの表作成)					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	学校設定科目		
科目名	パソコン実技II		担当講師	木下幹朗		
対象学年	3 年	履修時数	75 時間	単位数	5 単位	
実務経験	パソコンスクールで勤務しPC・ITインストラクター業務やホームページ制作代行に従事した経験から、パソコンを使用したレイアウト文書の作成、表計算作成、画像を用いたPOP作成を指導する。					
講義方法	講義					
使用教科書 使用教材	講師が準備するプリントや資料					
学習目標	聞き手・読み手を考慮したビジネス文書作成、プレゼンテーションの資料作成ができる。 計算や分析の関数を使うことができ、データを視覚的に見やすく加工できる。 メディアデータを活用し、自分らしい表現力で作品を仕上げることができ、配布できる。					
成績評価の 方法と基準	講義の最後に行う確認試験の成績 授業中に提出するデータの完成度					
講義回数	学習内容					
第1回	基本操作(PCの状態確認、マウス練習、エクスプローラの説明、文字入力、USBメモリ操作)					
第2回	ビジネス文書作成(文字書式、段落書式、敬称、ページ設定)、完成後、文書を印刷する。					
第3回	POP作成(図形、画像、テキストボックス、ページ設定)					
第4回	POP作成(SmartArt, スクリーンショット)					
第5回	園だより作成(テンプレートを活用する)完成後に印刷する					
第6回	ラベル作成(差し込み印刷、表計算ソフトによるリストの作成)、完成後に印刷する。					
第7回	表計算作成(データ入力、罫線、SUM関数、COUNT関数、MAX関数、AVERAGE関数等)					
第8回	表計算作成(データ入力、繰り返しF4、COUNTIF関数、MAXIF関数等)					
第9回	データベース編集(フィルターと並べ替え、グラフ作成)					
第10回	表計算作成(表作成、データの入力規制、条件付き書式))					
第11回	プレゼンテーション資料作成(メリットとデメリットの紹介)					
第12回	プレゼンテーション資料作成(メリットとデメリットの紹介)					
第13回	プレゼンテーション資料作成・発表、発表時の注意点等					
第14回	総まとめ(文書作成、表計算、資料作成)					
第15回	確認試験					
第16回	プレゼンテーション資料作成(場所の紹介、インターネットを使った適切な資料収集について)					
第17回	プレゼンテーション資料作成(場所の紹介)					
第18回	プレゼンテーション資料作成(場所の紹介)発表					
第19回	園だより作成(モバイルデバイスとパソコンの連携)完成後に印刷する					
第20回	POP作成(イベントのご案内)					
第21回	POP作成(A4用紙で複数人分のカードを作る、レイアウト配置)					

第22回	POP作成(差し込み印刷と画像コンテンツ)完成後に印刷する
第23回	表計算作成(条件付き書式と並べ替え)
第24回	表計算作成(IFネスト)
第25回	表計算作成(VLOOKUPとデータの入力規制)
第26回	園だより作成(既存のデータを複製して再利用)完成後に印刷する
第27回	ビジネス文書作成(臨時的な掲示物の作成)完成後に印刷する
第28回	ビジネス文書作成(Word上のテンプレートを活用しよう)完成後に印刷する
第29回	POP作成(インターネット上のテンプレートを活用しよう)
第30回	POP作成(CDジャケット)
第31回	動画作成(ソフトウェアのインストール、環境設定、画像の取り込み)
第32回	動画作成(お題の設定、画像の選定、音楽の選定、ストーリーの設計、製作)
第33回	動画作成(製作)
第34回	動画作成(製作と焼きこみ、包装)
第35回	POP作成(季節に合うイベントPOP)
第36回	総まとめ(Word、Excelの要点まとめ)
第37回	総まとめ(Power Point、動画作成の要点まとめ)
第38回	修了試験

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	子ども未来学科	科目区分	学校設定科目
科目名	保育造形演習Ⅰ	担当講師	藪田 秀子
対象学年	2 年	履修時数	30 時間
		単位数	2 単位
講義方法	講義・演習		
使用教科書・使用教材	「こどもと造形表現Ⅰ」「こどもと造形Ⅰ」 「絵画制作・造形実技編」「平面図形を楽しもう」「紙と遊ぶ紙で作る」 「動くおもちゃ」シリーズ 「おもちゃの作り方100種」 インターネット等		
学習目標	<p>1 製作経験をする中で、こどもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識を理解し技術を習得することができる。</p> <p>2 製作活動を通して、素材の色や形、材質等の造形に関する知識をもとに、材料や用具の安全な取扱いを理解することができる。</p> <p>3 こどもの生活経験と造形活動を結びつけ、目的を持った製作(平面図形・立体図形、遊ぶもの・飾る物)等の保育に必要な実践をし、活動することができる。</p>		
成績評価の方法と基準	・演習態度 ・材料の準備 ・想像力及び創造力 ・表現力		
講義回数	学習内容		
第1回	厚紙・画用紙を使って		
第2回	紙コップを使って①		
第3回	紙コップを使って②		
第4回	廃材、発砲スチロールを使って①		
第5回	廃材、発砲スチロールを使って②		
第6回	牛乳パックの活用①		
第7回	牛乳パックの活用②		
第8回	変わり絵①		
第9回	変わり絵②		
第10回	新聞紙の活用①		
第11回	新聞紙の活用②		
第12回	新聞紙の活用の応用①		
第13回	新聞紙の活用の応用②		
第14回	カーリングに挑戦①		
第15回	カーリングに挑戦②		

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	子ども未来学科		科目区分	学校設定科目		
科目名	保育造形演習Ⅱ		担当講師	藪田 秀子		
対象学年	3 年	履修時数	45 時間	単位数	3 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	「こどもと造形表現Ⅰ」 「こどもと造形Ⅰ」 「絵画制作・造形実技編」「平面造形を楽しもう」 「動くおもちゃ」シリーズ 「おもちゃの作り方100種」 インターネット等					
学習目標	<p>1 製作経験をする中で、こどもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識を理解し技術を習得することができる。</p> <p>2 製作活動を通して、素材の形や色、材質等の造形に関する知識をもとに、材料や用具の安全な取り扱いを理解することができる。</p> <p>3 こどもの生活経験と造形活動を結びつけ、目的を持った製作(平面図形・立体図形、遊ぶもの・飾る物)等の保育に必要な実践をし、活動を工夫することができる。</p>					
成績評価の方法と基準	演習態度・材料の準備・想像力及び創造力・表現力					
講義回数	学習内容					
第1回	厚紙、画用紙を使って。					
第2回	新聞紙を使って。					
第3回	段ボールを使って①					
第4回	段ボールを使って②					
第5回	輪ゴムを使って					
第6回	エンドレス変わり絵①					
第7回	エンドレス変わり絵②					
第8回	牛乳パックを利用して					
第9回	ペーパーの芯を利用して					
第10回	発砲スチロールを使って					
第11回	合わせ絵を作ろう①					
第12回	合わせ絵を作ろう②					
第13回	絵本を作ろう①					
第14回	絵本を作ろう②					
第15回	絵本を作ろう③					
第16回	竹あかりに挑戦①					
第17回	竹あかりに挑戦②					
第18回	飛び出すカード①					
第19回	飛び出すカード②					
第20回	ゴム印①					
第21回	ゴム印②					
第22回	くす玉づくり①					
第23回	くす玉づくり②					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科			科目区分	学校設定科目	
科目名	保育・教職実践特別演習			担当講師	山口悦子	
対象学年	3 年	履修時数	60 時間	単位数	4 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	「保育・教職実践演習」(豊岡短期大学通信教育部配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館) 「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)					
学習目標	○授業で学んだ学習知と教育実習で得られた実習知を統合し確かな実践的指導力を身に付ける。 ○保育における集団編成についての学びを幼稚園教育の理解へと発展させる。 ○科目試験:幼稚園教育に特に必要な学習知を確認してより実践的な教員の養成を図る。 ○授業の学習知を基に実践知を統合し確かな実践的指導力を身に付け教職への意欲を醸成する。					
成績評価の方法と基準	・実践的・専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価をする。 ・出席状況(30%)・授業態度(40%)・科目試験(30%)の結果により判定し総合的に評価する。 (ルーブリック評価:SABCDの段階により評価する)					
講義回数	学習内容					
第1・2回	教師という職業について実際の事例から学ぶ。					
第3・4回	学級経営の実際について現場の話から学ぶ。					
第5・6回	特別支援教育の実際について現場の話から学ぶ。					
第7・8回	特別支援教育と教師・保育者の役割の実際について現場の話から学ぶ。					
第9・10回	保育における集団の編成の効果の実際について現場の話から学ぶ。					
第11・12回	人権教育の実際について現場の話から学ぶ。					
第13・14回	幼稚園における園行事の実際について学ぶ。					
第15・16回	幼稚園における園行事(PTA行事)について創意工夫の観点から捉える。					
第17・18回	幼稚園における園行事について創意工夫の観点から捉える。					
第19・20回	幼稚園における安全教育について現場の話に学ぶ。					
第21・22回	幼稚園における防災教育について現場の話に学ぶ。					
第23・24回	幼稚園における防災教育について現場の話に学ぶ。					
第25・26回	幼児教育の将来的展望について現場の話から学ぶ。					
第27・28回	幼保小連携の実際について現場の話から学び、実践的に学ぶ。					
第29・30回	幼保小連携の実際について現場の話から学び、実践的に捉え考え合う。					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	学校設定科目		
科目名	教育実習事前・事後指導(T)		担当講師	濱田 由美子		
対象学年	3 年	履修時数	45 時間	単位数	3 単位	
講義方法	講義					
使用教科書・使用教材	教育実習事前・事後指導（豊岡短期大学通信教育部テキスト）・幼稚園教育要領解説書 幼稚園教育実習実習簿、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書					
学習目標	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特性や発達過程を踏まえ理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に臨む態度を育成する。また、実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。					
成績評価の方法と基準	・事後レポート: ルーブリック評価(100%) ・教育実習の意義と目的を学び、実習生としての心構えができたか。幼児理解や観察の視点・方法・指導案作成等の習得。目標をもち実習に臨む態度育成。実習後の自己評価から課題・目標を明確にできたか。					
講義回数	学習内容					
第1～5回	実習の意義と目的(幼稚園教育の特質・実習の意義と目的・保育者としての倫理・実習生としての心構え)について学ぶ。					
第6・7回	教育実習の流れと手続きについて理解する。					
第8・9回	事前面談(相談)、観察・参加・責任実習(長期短期指導計画・環境構成・幼児理解と保育)について理解する。 関係書類を作成する。					
第10回	実習先との事前打ち合わせを実施する。					
第11回	教師の援助(保護者理解と支援・特別な支援を要する子どもへの対応)について学ぶ。					
第12回	実践演習(手遊び・読み聞かせ・紙芝居等)をする。					
第13回	指導案作成(1)(指導案とは何か)					
第14・15回	指導案作成(2)(指導案作成の実際)					
第16回	幼稚園教育実習のおみやげづくりをする。					
第17・18回	幼稚園教育実習における実習簿を整理する。					
第19回	実習の総括と評価活動を行い課題の明確化(幼児理解と学び・保育者の活動からの学び)を図る。					
第20回	実習先にお礼状を作成し送付する。					
第21～23回	幼稚園教育実習におけるまとめをする。					

令和 5 年度 講義計画(シラバス)

学科名	こども未来学科		科目区分	学校設定科目		
科目名	就職対策		担当講師	濱田由美子		
対象学年	3 年	履修時数	30 時間	単位数	2 単位	
講義方法	講義・演習					
使用教科書・使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・履歴書 ・履歴書作成資料 ・資料プリント ・各種パンフレット ・求人票ファイル ・保育士登録のしおり ・免許申請書類 					
学習目標	<p>保育士国家資格取得に向けて、必要な書類を作成することができる。</p> <p>幼稚園免許取得に向けて、必要な書類を作成することができる。</p> <p>自分の進路希望を明確にし、実現に向けて積極的に取り組むことができる。</p>					
成績評価の方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士国家資格手得 ・幼稚園免許取得 ・社会福祉主事任用資格取得 ・自主実習体験 ・採用試験を受験し内定等進路決定 					
講義回数	学習内容					
第1回	実習等本学での学びを振り返り、進路(就職)について、具体的展望を持つ。(面談)					
第2回	希望に合う就職先について、情報を収集する。(面談)					
第3回	履歴書作成について学び、下書きをする。					
第4回	履歴書を作成する。(清書)					
第5回	採用試験における面談等の方法について学び、練習をする。					
第6回	保育士登録の関係書類を作成する。					
第7回	幼稚園免許申請の書類を作成する。					
第8回	卒業関係の書類を作成する。					
第9回	交流会の計画を立て役割分担をする。					
第10回	交流会の準備をする。(実技練習発表準備)①					
第11回	交流会の準備をする。(会場環境設営製作)②					
第12回	交流会のリハーサルを行い、動きを確認し合う。					
第13回	会場設営等交流会の準備をする。					
第14回	交流会をする。					
第15回	交流会や学生生活を振り返り成果を確認するとともに、就職についての意欲を高める。					